

妙情地城圖法大全書

神意上丹目錄標懸測法

平地懸測圖式

空中台法圖式

遠望城邑九龍圖式

懸測六變圖式 鈎陳法氣一室

遠望二變圖式

方器一變圖式

山溪一變圖式

陰陽志測圖式



卷一 卷二 卷三 卷四 卷五 卷六 卷七 卷八

門 5098
號
卷 2

秘傳地域圖法大全書

坤卷上冊目錄 係懸測法

平地懸測圖式

驗中否法圖式

遠望紙長机短圖式

懸測六變圖 附 鈎股弦說三五圖

進退二變圖式

方罟一瞬圖式

山溪二瞬圖式

險難懸測圖式

第一

第二

第三

第四

第五

第六

第七

第八

早稻田大學
昭和25.6.28
購 査

極遠指掌圖式

第九

坤卷下冊目錄

城郭巡視圖式

第十

人馬懸測圖式

第十一

須知懸測圖式

第十二

斜懸測圖式

第十三

二斜三斜六斜

槍柄懸測圖式

第十四

植種懸測圖式

第十五

夜火懸測圖式

第十六

林野第宅大盤式全書

第十七

林野中作大盤式書坤卷上冊第十八

附錄

義定文稿

中古目錄

古目錄

傳來諸賢姓名

印證諸品目錄

新傳四種目錄

新定器用圖

秘傳地域圖法大全書坤卷目錄終

秘傳地域圖法大全書坤卷上冊

懸測總論

懸測ハ河内蘭陀に口ウト傳ノ内ノ。町見術也。日域昔ヨリ此法アリトイヘ凡。如此神速ニメ精到ナルハナシ。殊算數ニ涉ル類ハ其人ニ能ク不能アルニヨリ一算タカヘハ。千里ノアヤマリトナル。此傳ハ算數ヲ用ニス。只目前ノノ實事ヲ以。明白ニメ疑ナシ。乾卷ノ總論ニ云ルコトヲ。世人皆町見ヲ好ムハ。游藝ノ本旨ニウトキ故也。遠キ物ノ町數近キモノハ。間數ヲ見テ。亦ナ

理中府大書在

卷六

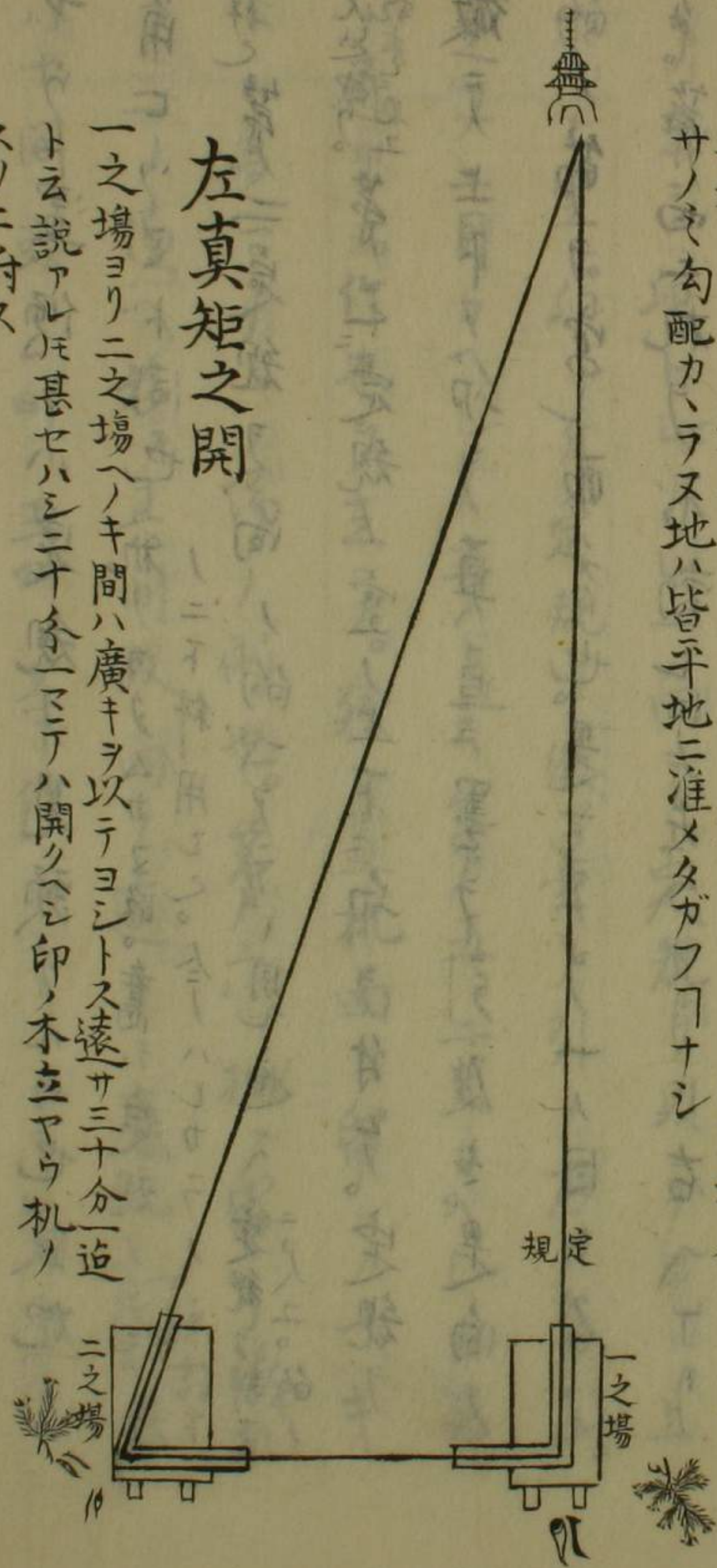
リ氏。何ノ益カアル。懸測ハ地圖ノ脚ニ此上ナ
 キモノ也。險阻河海ヲ隔テ。行レ又境ヲ知り。
 図上ニ列スルニ毛髪ヲ失ハス我モ信之。人モ信
 シ後世傳ヘテモ。アヤコリナケレハ。周禮ノ本イ
 ニ七略ニテ。減精粹至妙ノ術也。

平地懸測圖式。平地ニ見ユルノ物。里數ヲ亦ス。法也。舊傳ハ左右
 進退。段々教ヘタリ。金子ヨリ六法ヲ一ツニメ。後
 シ千變万化皆此ニ出テ。同今ノ平地遠寺アリ。
 其里數幾多。答云。幾里幾所。幾間。

平地ハアノガチ。棋盤ノ面ノコトクナル地ニカギラス。岡陵坡谷アリトモ
 サノ勾配カ。ラ又地ハ皆平地ニ准メタガフナシ。

左真矩之関

一之場ヨリニ之場ヘノキ間ハ廣キヲ以テヨシトス。遠サ三十分一迄
 ト云説アレハ甚セハニ十分一マテハ開クヘシ印ノ木立ヤウ机ノ
 スソニ附ス。



此ノ法ハ古ノ時ヨリ用テ來ル。其ノ法ハ今ノ法ニ異ナリ。其ノ法ハ今ノ法ニ異ナリ。其ノ法ハ今ノ法ニ異ナリ。

法第一ニ机ヲ的^{マキ}向ヘテ置

其机面ニ美濃帛ヲ假ニ張机ノ寸尺下ニ詳也

机ノ置ヤウ。振ニカマハス。只机面平ニメ傾カサル

ヤウニ置。傾ケハ定規ノ見頭クルウ也。鉄炮ノ

角ヒツコト同也 机ノカタムカマ法。舊ハ定規ノタテモ

ノニ下斜用シ之。今ハレカラス。其法下 第二定規ヲ向ノ的ヘアテ見通ス 定規ヲ判下ニ尺ユ。的ノ

尺込ヤウ。乾巻ニ見ユ 第三ニ定規ノ空ノ上下ニ印ヲ付ケ。定規ヲ

徹テ上下ノ印ヲ真直ニ墨ヲ引度々。是向ノ

的ノ筋ヲ字シ取タル也。是マテ一ノ目ト名ツ

ク。第四ニ机ヲ右勅シテ左ヘナリ凡右ヘナリ

凡。又前ヘ進ニモ。後ヘ退ニモ。障ナキ地ヲ

預見タテ置。

預メ尺タテル意

下ニ筋ス今ノ齒式ハ左ノ真規ノ之 其所竹木

ヲ立テ印トシソレニ向テ定規ヲ以テ見ル。上

下ノ空ニ印ヲ付定規ヲ徹。墨ヲ引ト右ノコトシ。

是ヲ二目カヘシテ半ト云第五ニ目カヘシノ筋

ノ通具ニ竹木ヲ立テ。強シ置机面ノ帛ヲヘキ

トル是ニテ一ノ場ノ例也。第六ニ机ニ帛ヲ張。机

ヲ二ノ場ヘ移ス其間数向ノ遠サニ應ス。上ニ見ヘタリ或

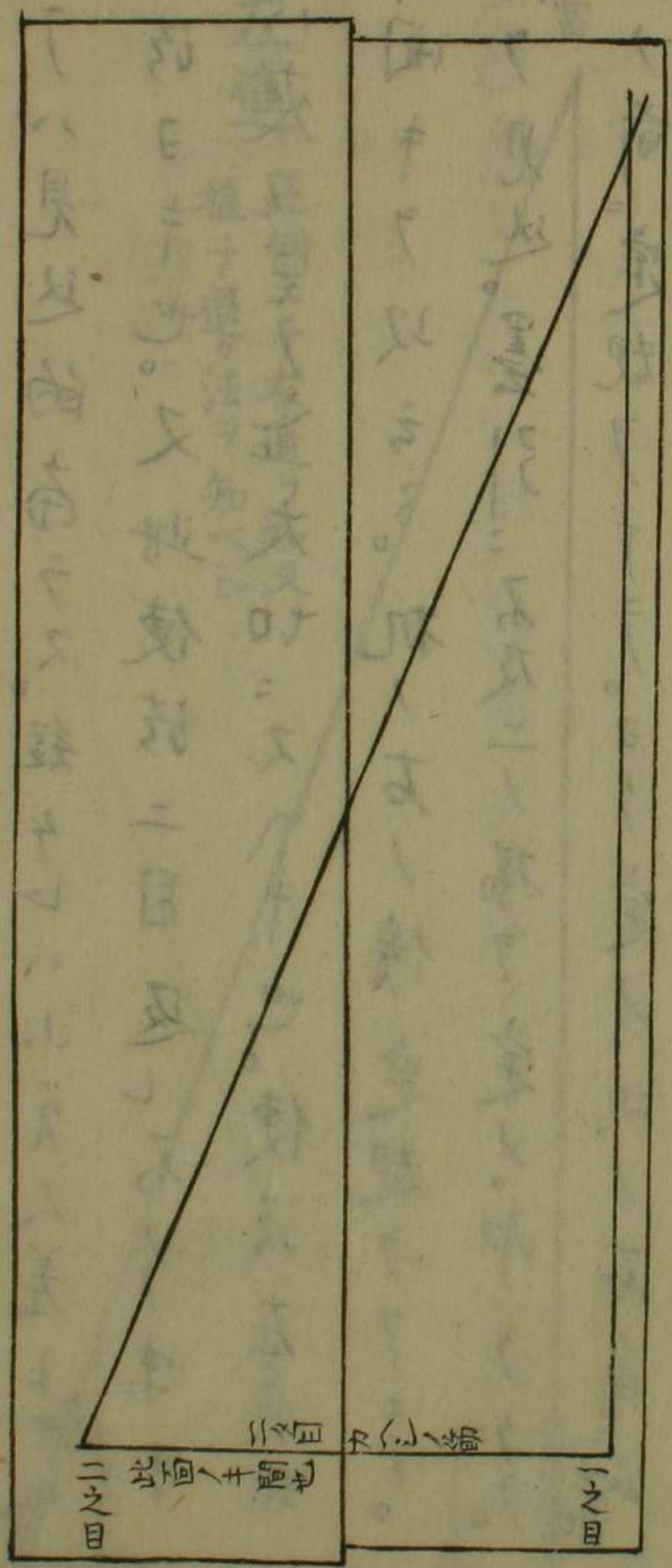
ハ十間。或ハ一町五町等後ニツモリヨキヤウニ定ム

第七ニ二ノ場ニ机ヲ直シ。一ノ場ニ強シ置タル。印

ノ不ヲ見通シ。墨ヲ引是ヲ二目返し海ト云。

此二目返此傳ノ極秘也。古流ノ所見ニ思ヒ
 ワヌコ也。第八ハ向ノ的ヲ見通シ墨引第九
 帛ヲヘキ取。一ノ場ニノ場。二枚ノ帛ヲカサ子
 透シテ。二目返ノ節ヲ能ク達ナキヤウニ取合
 スレハ。一ノ目ノ節ト二ノ目ノ節トノ末後ニカサ
 ナル。其後ト即向ノ的也。第九ニコレハスノロヲ用
 ニテ。一ノ目ヨリ二ノ目ニテノ間ヲハカリテ。其コ
 ンバンスノロヲ石節シテ。向ノ的ニテノ遠ナリ知コ
 タトヘバーノ目ニノ目ノ間五町ノ間ナラハ。コレハ
 スノロヲ五ニテウヤリニ同キテ。ソレヲ以テ後ニテ

テテララハカル也如图

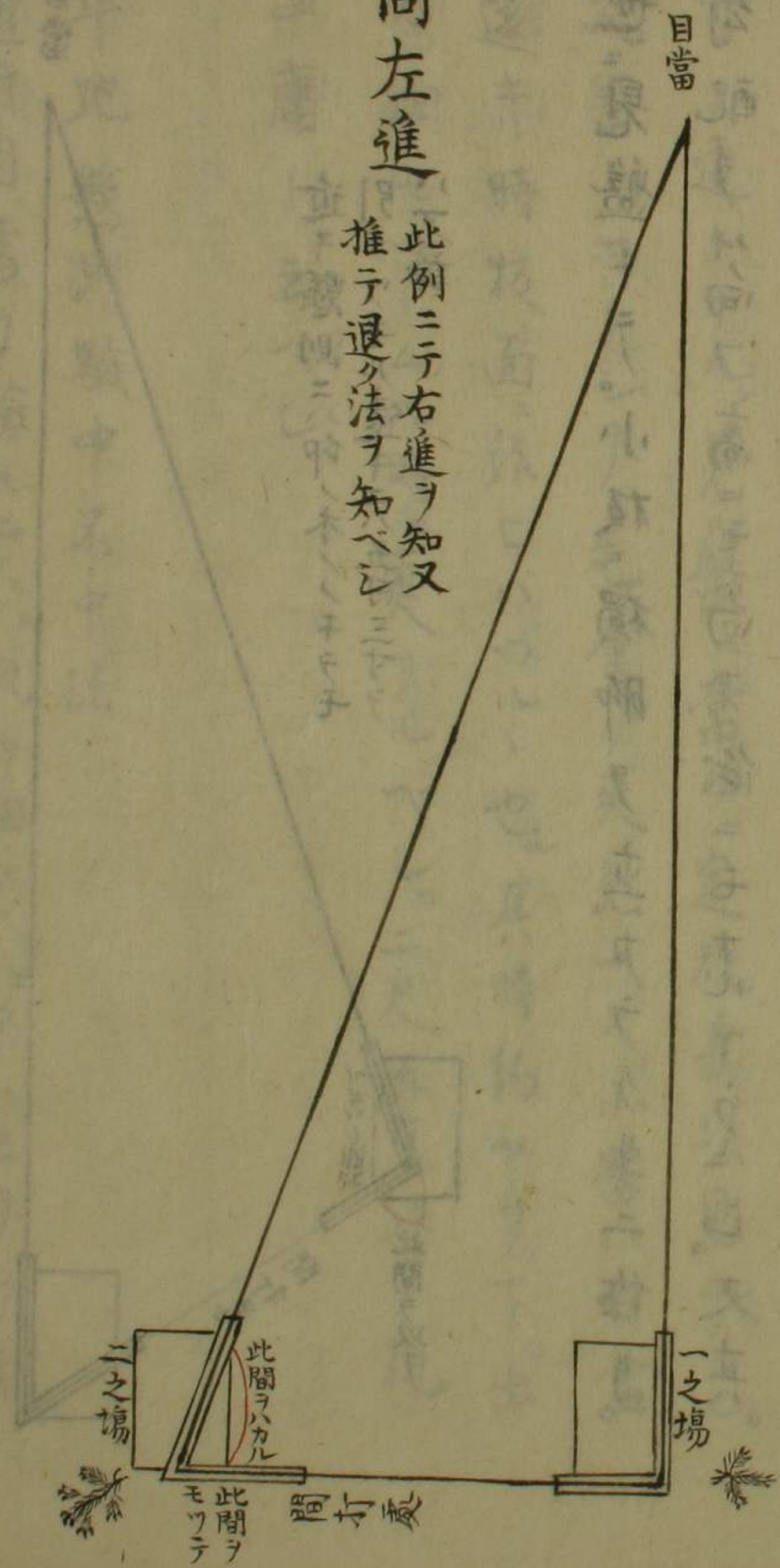


右ハ本式也。阿蘭人以來昌澤ニテモ如此。
 近來簡要ノ一法アリ知慎。是ニ從フ。此法何

人ニ出ト云フヲ不知。物レ定規机ヲ略ニメ便ナ
 リトスルヲハ。知慎ラケカハス。定規ニ見頭ナリ
 乙テハ見込的南ラス。短ケレハ小差大差トナル。
 古法ヨキ也。又此使法ニ目返シ不吟味ナ
 レハ夾フモノ也。大切ニスヘキ也。使法左真矩
 ノ間キラ以云々。机ノ右ノ傍定規ヲアニ。
 向フ見込。墨引ニ不及ニノ場ヲ定メ。印ヲタテ。
 机ノ前ニ定規ヲアテ。ヨリ定メ。机ノ右ノ角ニ印
 ノ竹木ヲ弑シ。ニノ場ヘウツニ目返ヲヨリシ。机ヲ置
 向フ目アテヲ見込。定規ヲ以墨ヲ引。

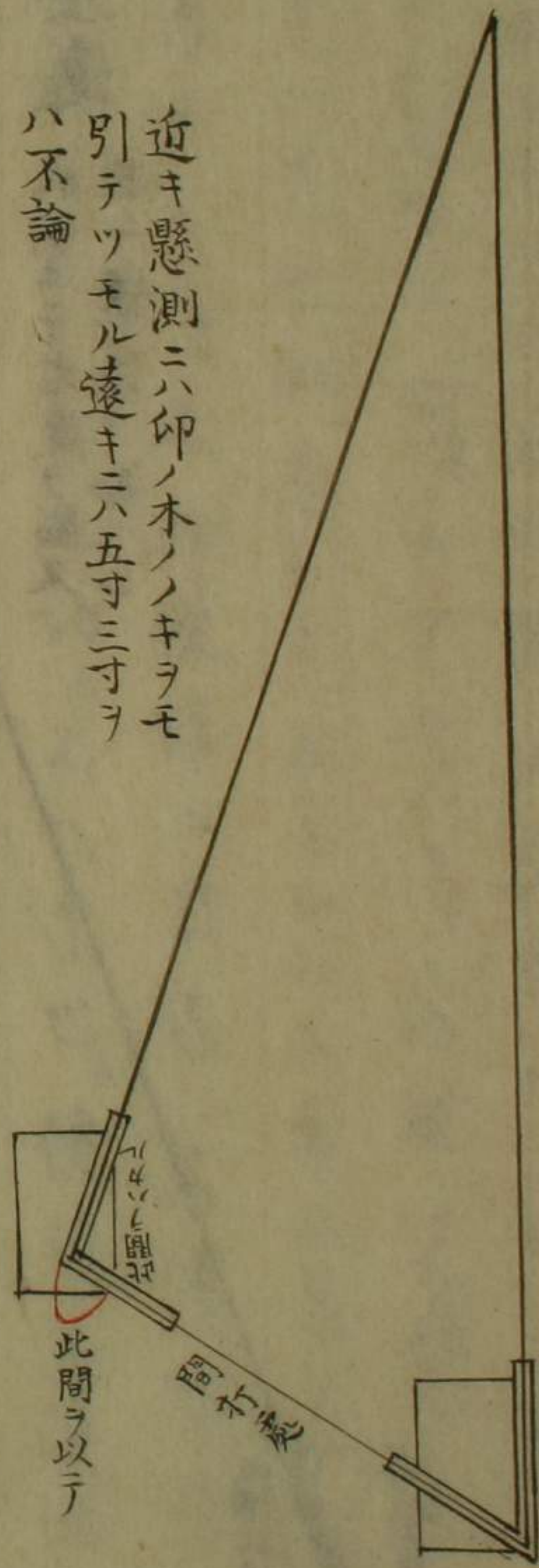
同左進

此例ニテ右進ヲ知又
 推テ退々法ヲ知ベシ



目當

近キ懸測ニハ仰ノ本ノキヲモ
引テツモル遠キニハ五寸三寸ヲ
ハ不諭



世ニ見盤トシテ。小板ニ獨脚ヲ立。カラクリニ作り。
勾配ヲハ向フ高ニモ向フ低ニモナルヤウニシ。又其
板ヲ側ヲ定規ヲアテ、大ナル勾配ヲ見ルヤウニ
シタル術アリ。此ハ筒使過テ。大用。害アリ。

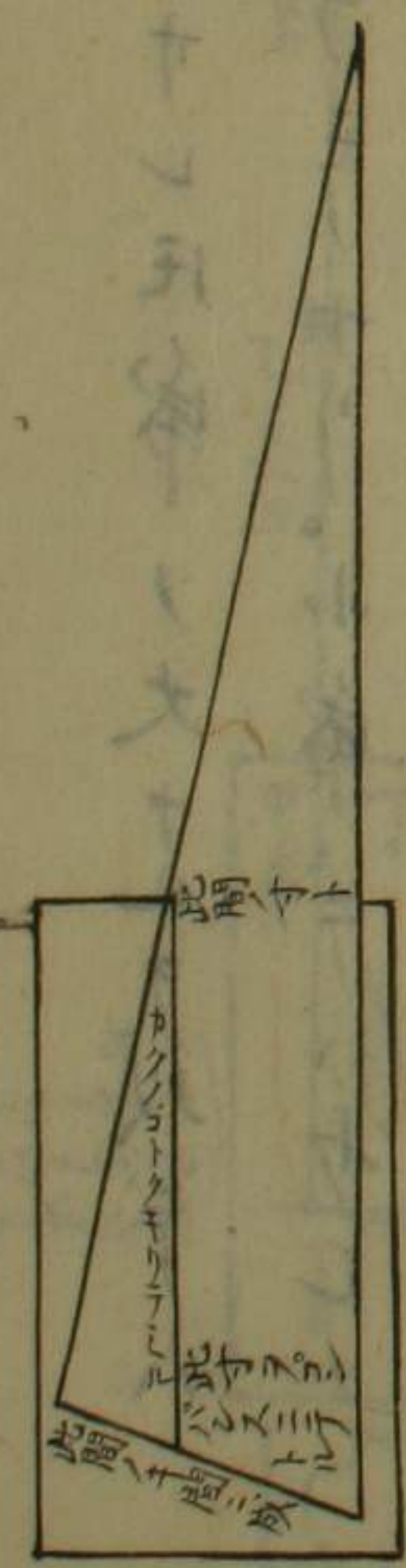
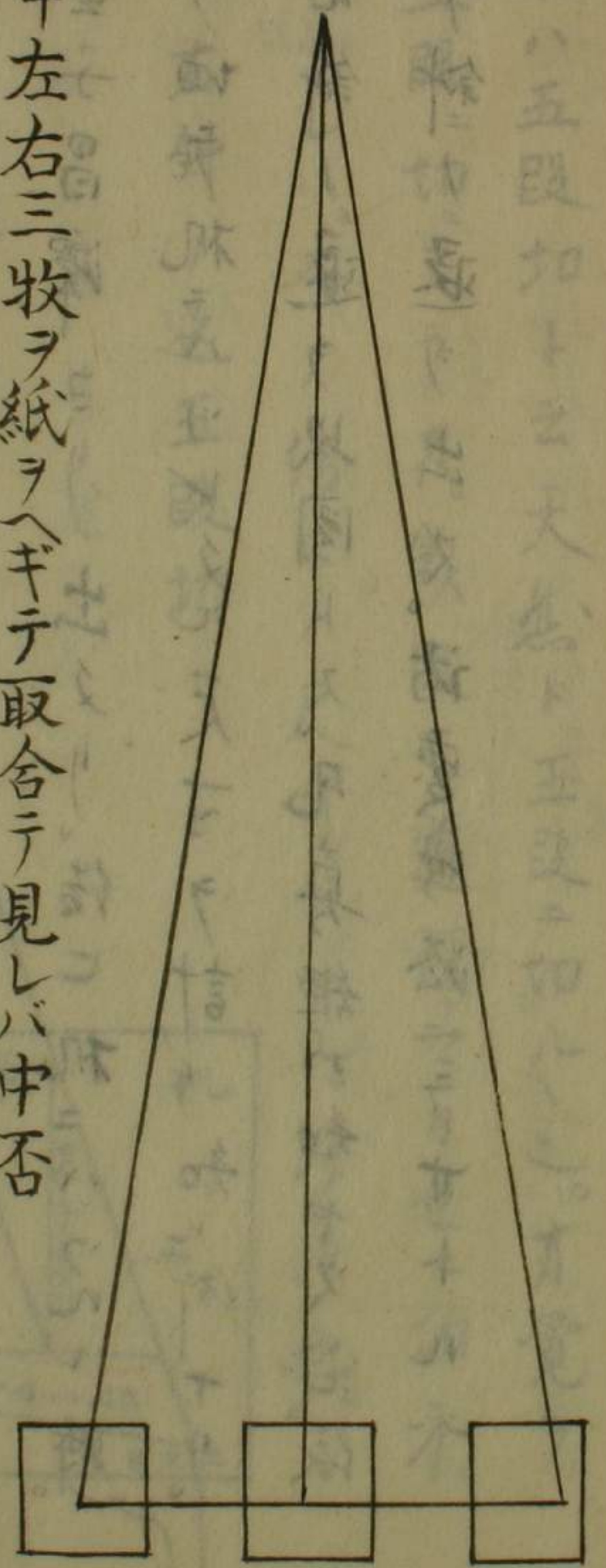
分釐ヲタカニ場所大ナシハ。大差トナル六尺ノ
内ニテ一分違ヘハ。ニテ六町ニテハ。ニ丈一尺六
寸ノ遠トナル。見盤ニ常ノ定規甚以見ニクシ。
況器小サリシテ。毛厘ノ爽見ヘス。小器ハ目當
遠キ時板面ニ依ヒハツル也。其時約ヤウ下ニ出
ス物凡ソムル時ニ爽アルベシ。二尺五寸以テ机
中庸ト云ヘシ

平地懸測驗中不中法
近キ目當ヲ驗ルニハ。机ヲ曲尺ニアハセテヲキ。

中央ニ定規ヲ立。目アテヲ見込ニ。墨引机ノ
 右左ノ角ヨリモ。目當ヲ見込ニ墨引必机ノ向
 ニテ。左右ノ墨板ハツル也。中墨ト左右ノ墨
 ノ間ヨリソロヘハ。此町見アヒタルト云ヘシ。又目
 當遠キ時ハ中央ノ墨引テ後。右左へ同しる
 幾間モノキテ。目當ヲ見込墨引。左右一様
 ソロヘハ。此懸術アヒタル也。を二目返ヲ正シクス
 ヘシ。但此術サレテ用ナキコト。然レハ記メ
 多聞ニソナリ。當流懸測ニ於テ。中ノ石中テ
 ハ輪ニ及ヘカラス。云々

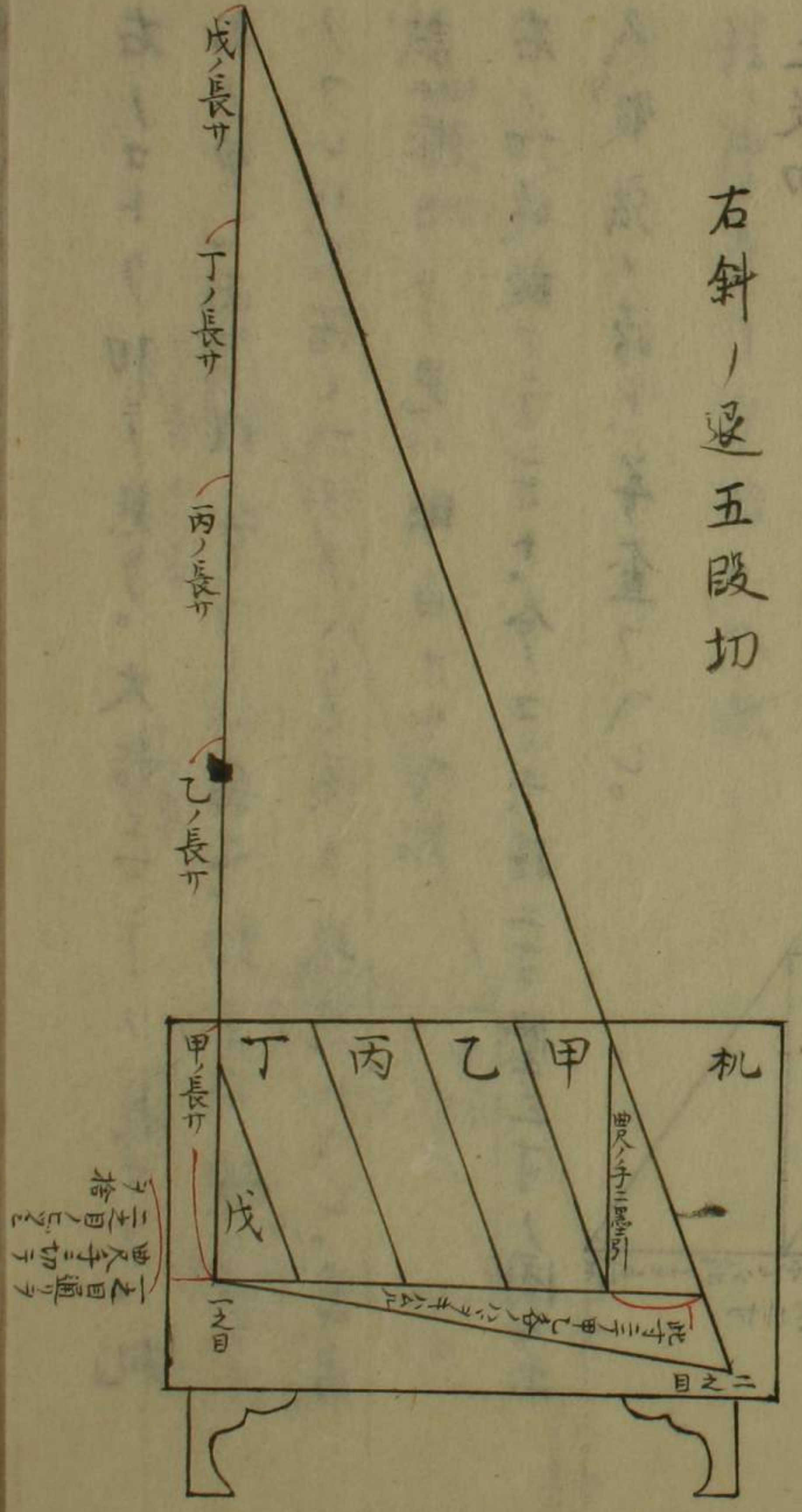
中左右三枚ヲ紙ヲヘギテ取合テ見レハ中否
 不明ニ見ユル

遠望紙長机短圖式
 目當透ケレハ勾配ユルシユルケレハ机ニ結ハツル也。約メテ見ル法



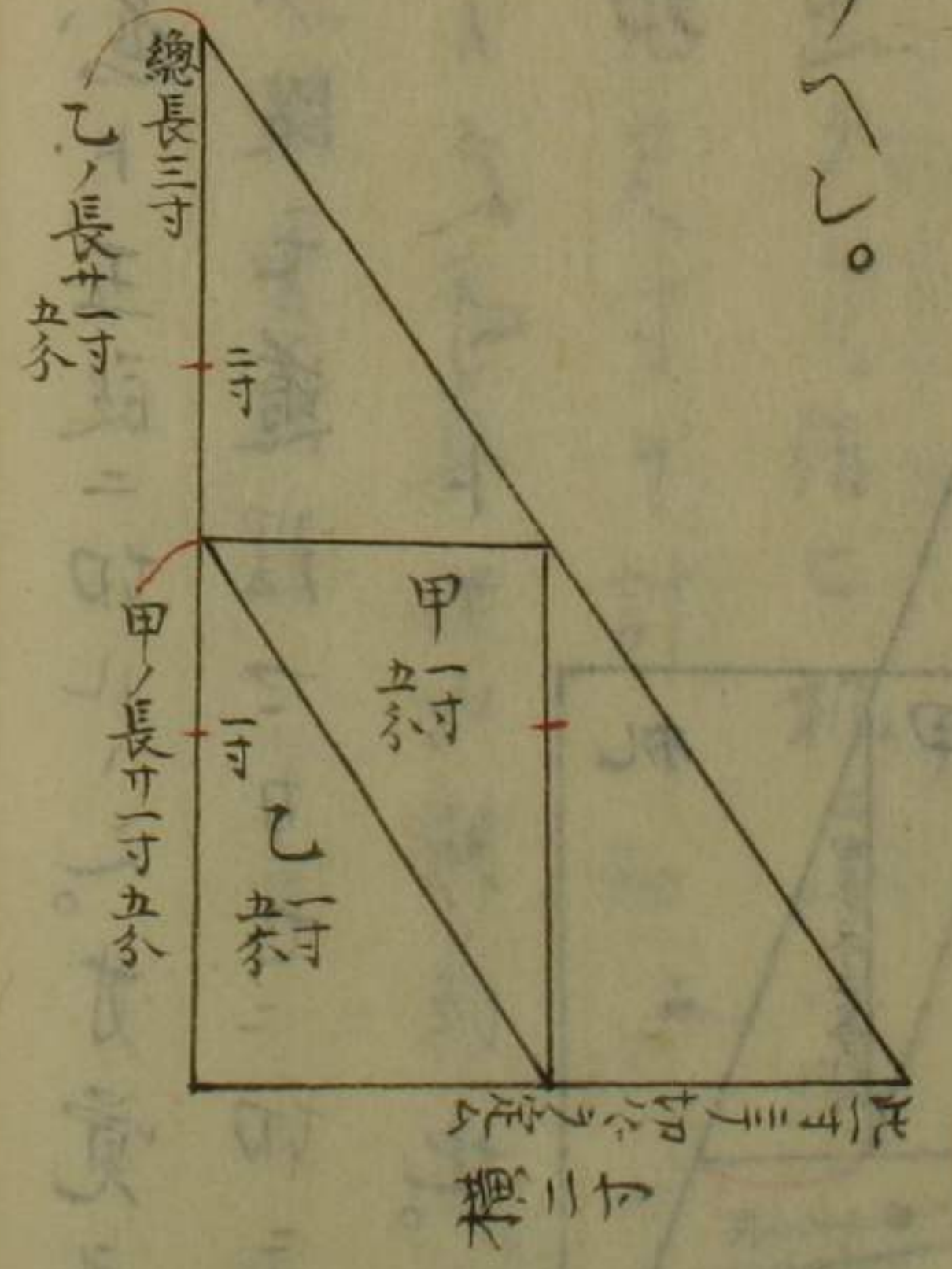
此法ヨレトイヘ凡。オレ凡帛ノ大ナルヲ以テハ
カレハ懸測ヨクアヲモノナリ。小帛ニテハ少シノ
ホコリ。大夕カヒトナル。惣メ簡便利最ノ新工夫
出テ術ノ害トナルヲ多シ。学者心ヲ用ユヘシ。又
一法是ハ廻リ遠キ法トイヘ凡。道理明徹セ
リ。金子昌澤ヨリ出タリ。結ヒ机ニハツル。時
帛ヲ切テ机ニハツレタル尺寸ヲ計リ知ル術ナリ。
今右斜ノ退ヲ以圖トス。凡真矩ハ知ヤスシ。依
テ今斜ノ退ヲ出ス。諸要此法ニテサトルベ
シ。

此圖ハ五段切ト云天然ト五段ニ切ル。才覺ヲ
以テ五段ニ切アラハス。幾段モ道理ヲカセニ切テ。
續々ツレハ本ノ倍ヒノ尺寸トナル。妙法也。
右斜ノ退五段切



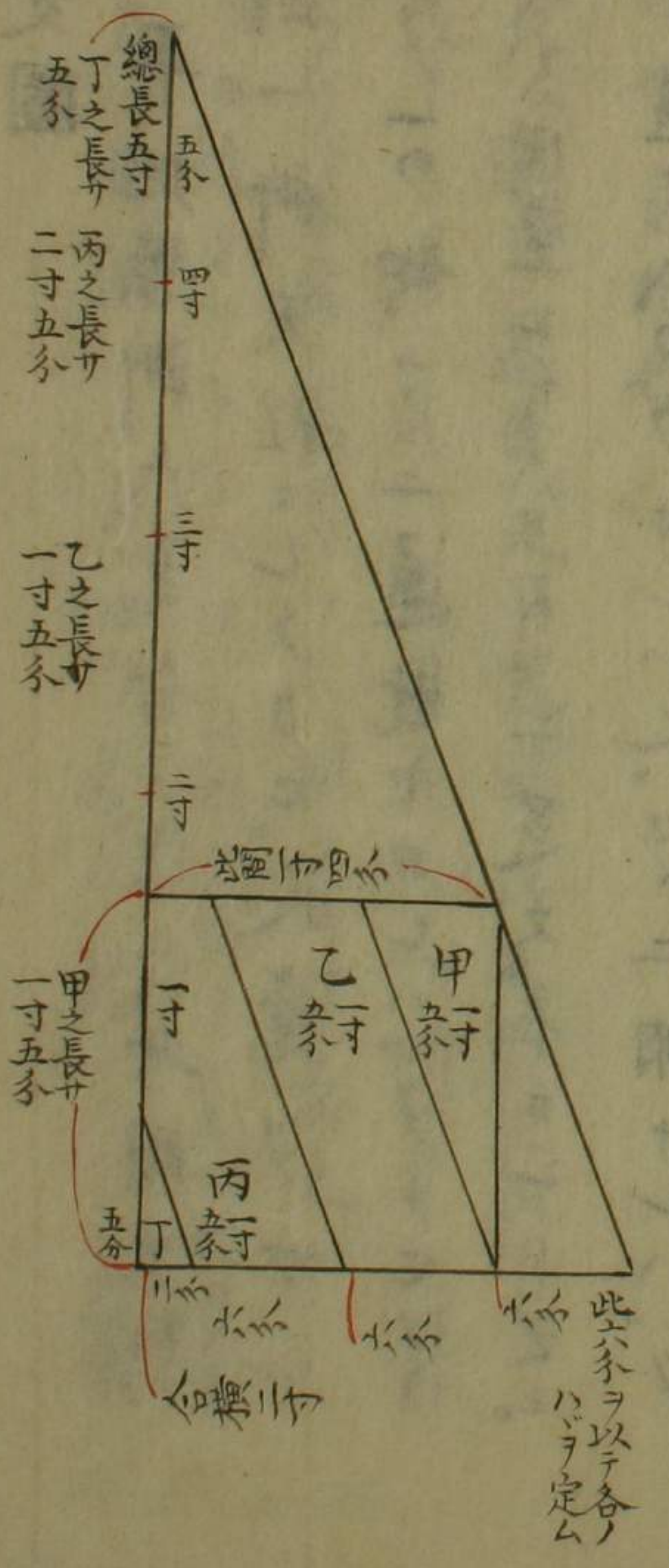
右ノコトリ切テ見テ。大倍ヒマテノ長サヲ。机
 上ノ甲乙丙丁戊ノ寸ヲ以知之。切タル紙ヲツキテ
 ノフレハ大倍ヒマテノ寸ヲ以見ルヘシ。学者
 試ニ作りテ見ハ明白ナルヘシ。
 右ノ切法ニ疑アラニカト。今コニ、按ニ寸量ニ寸ノ図ヲ出
 ス。勾股弦ノ法ト。并查フヘシ。

二段切



右ノ一圖ニテ道理明ナレト。ハレタナキ故ニ。尚疑ア
 ラニカト。又一圖ヲ出ス。此ニ圖ヲ以テ千變万化。勾
 股弦ヲハナレヌメ。地域圖法妙術トイヘト倍一
 理ニ帰スルヲ倍ルヘシ。

四段切



此系ヲ以テ各ノ
 ハラ定ム

懸測六變圖

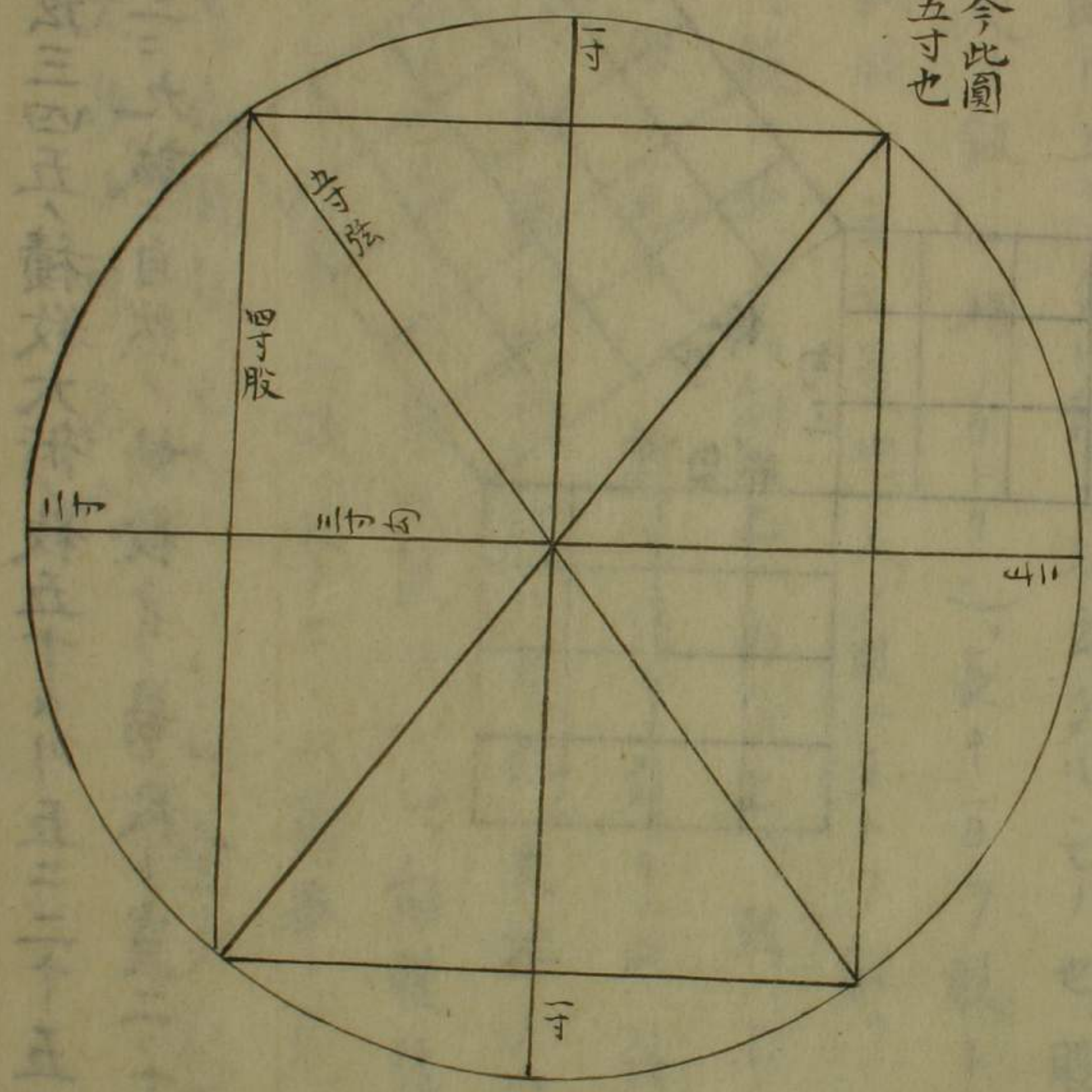
此圖知頓平地懸測六變合テ作ル。此圖ヲ熟
視メ懸測一術天理ニシタカヒ。人意ヲマシ
ヘサルヲラーの知。コ、ニ通曉セサレハ。タトヒ
寸ヲ爽ヘス氏至レリトスルニ足ス。イカント云ニ
變ニアフテ通スヘカラサレハ之。コ、ニ明サレハ。タ
トヒ器物ヲ携ヘス氏。眼ニサヘキルモノ測ルニモ
ル、事ナシ算家ニ。三四五鈞股弦此形ト算
合メ毛重ヲタカヘス。規矩ノ根え是也。然ルニ
曲尺ヲ用ユルハ。天下古今ノ通法ナリ。トイヘ氏。

其曲尺木理カナフ器ナシ。ヨリテ器ニアヤコラ
レ此六變ノ法ハ器ニアラス。其見ユル物ニ應メ
變化毎量ニメ。皆道理ニアフ我瞳子此圓相ノ
轉會スル要也。物ニ應メウワス。規矩ニアラサルハ
ナシ。天然也。自然也。

此六變ノ外ニ進歩退歩。又不進退ノ法ト。共ニ三法アリ。
合ニノ九法ナリ。此之法ハ。其用セハシ。又一圖ニシテハ。鏡像
シテ。尺カタリ。其者ノ爲ニナラス。因テ此次ニ出之。

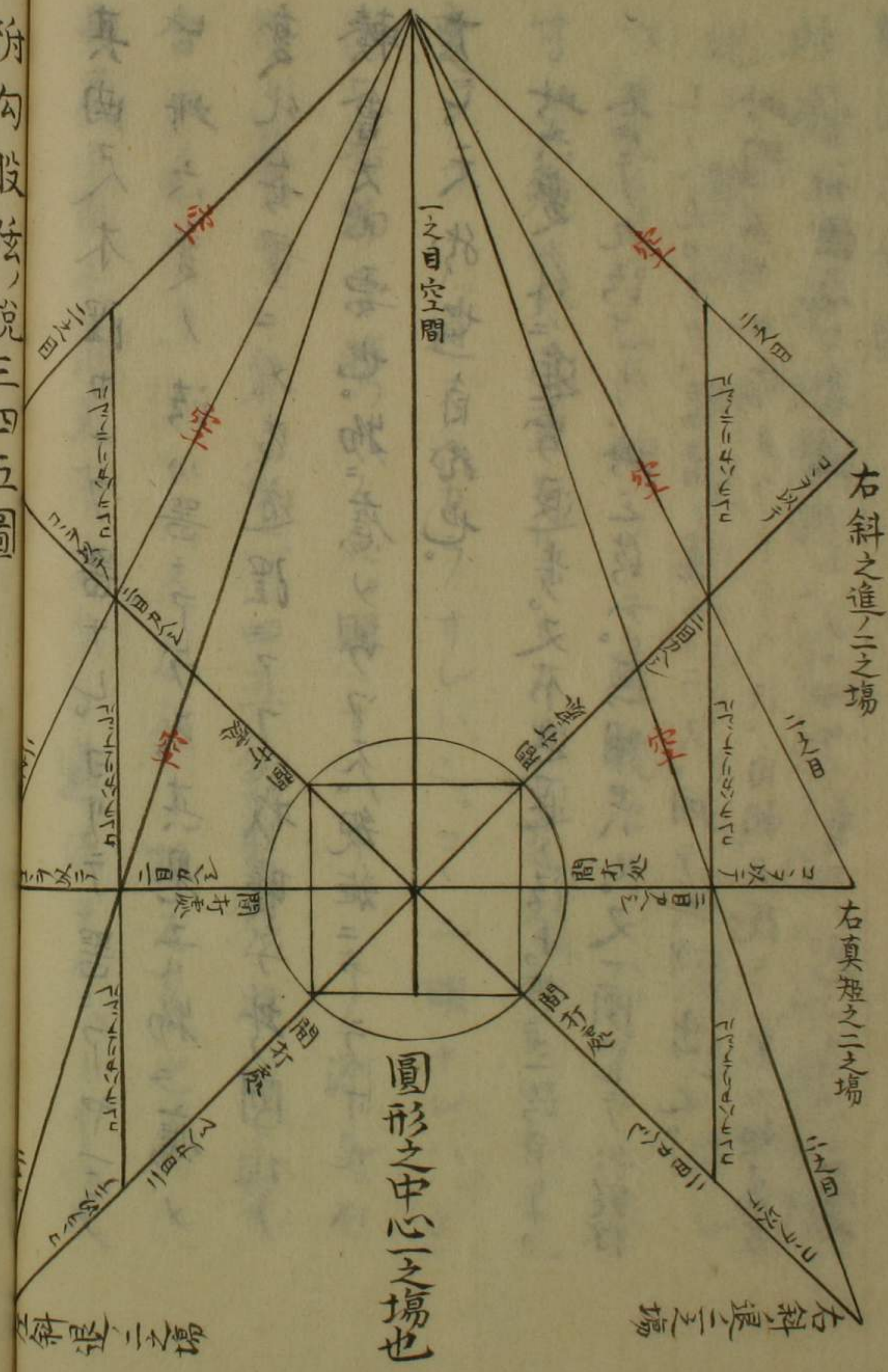
此圖知頓カ作タリトイヘ氏。自朝夕既テ糸ル如ク多
シ。子徑及ヒ東游ノハる。心ヲ着テ見ニテラ。履炭
ス

方
八寸
六寸



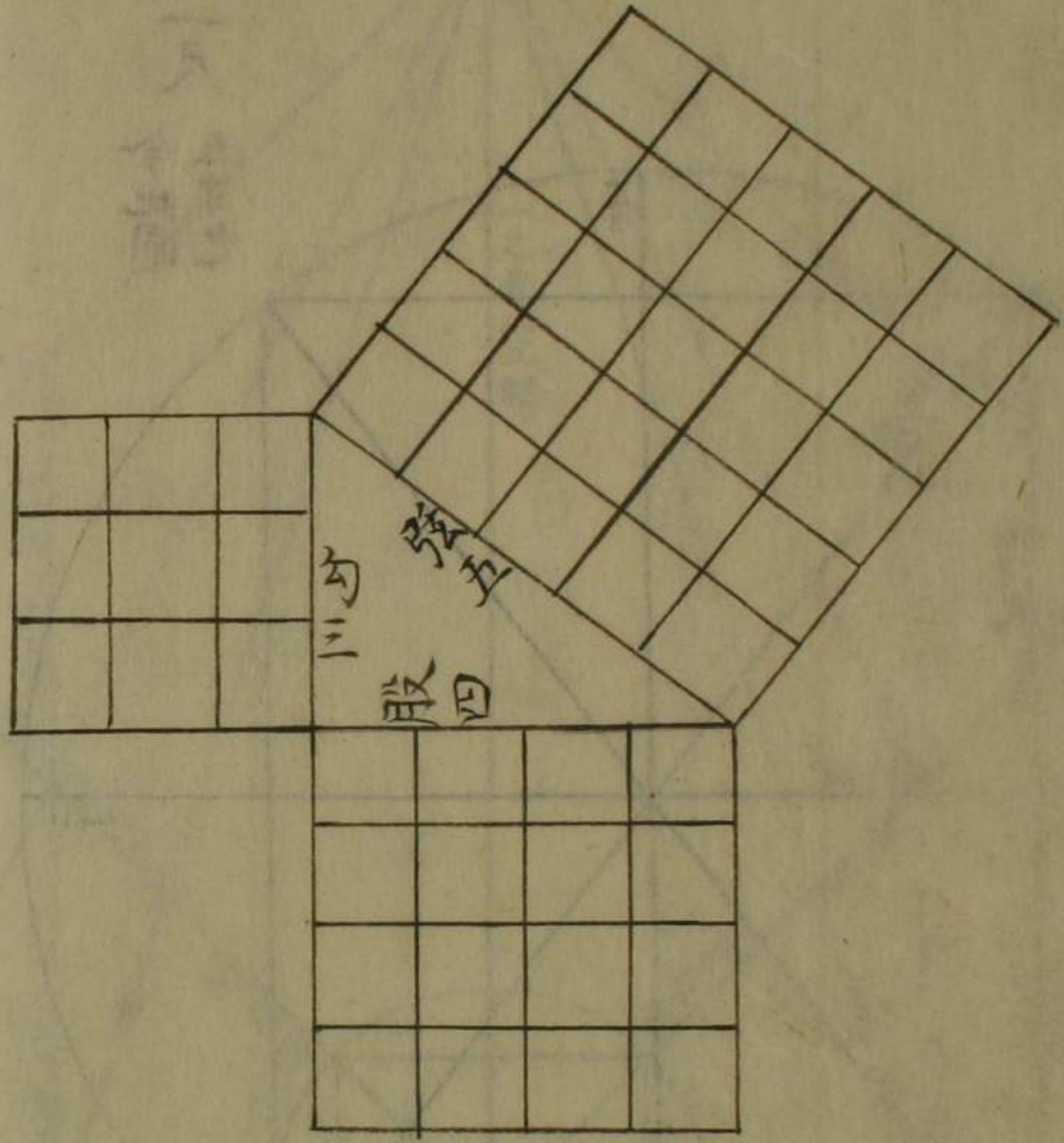
圓
徑一尺
今此圓
五寸也

附勾股弦說三四五圖



圓形之中心之場也

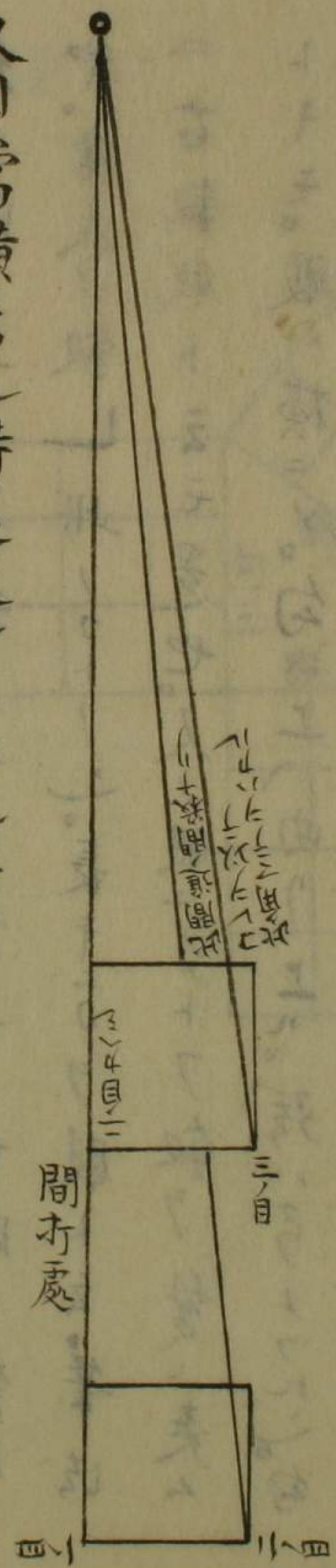
勾股弦三四五積教大術教五十ナリ五三二十五四二
 十六三九誠ニ自然ノ妙教ナリ易教ト豈ニツナラヤ



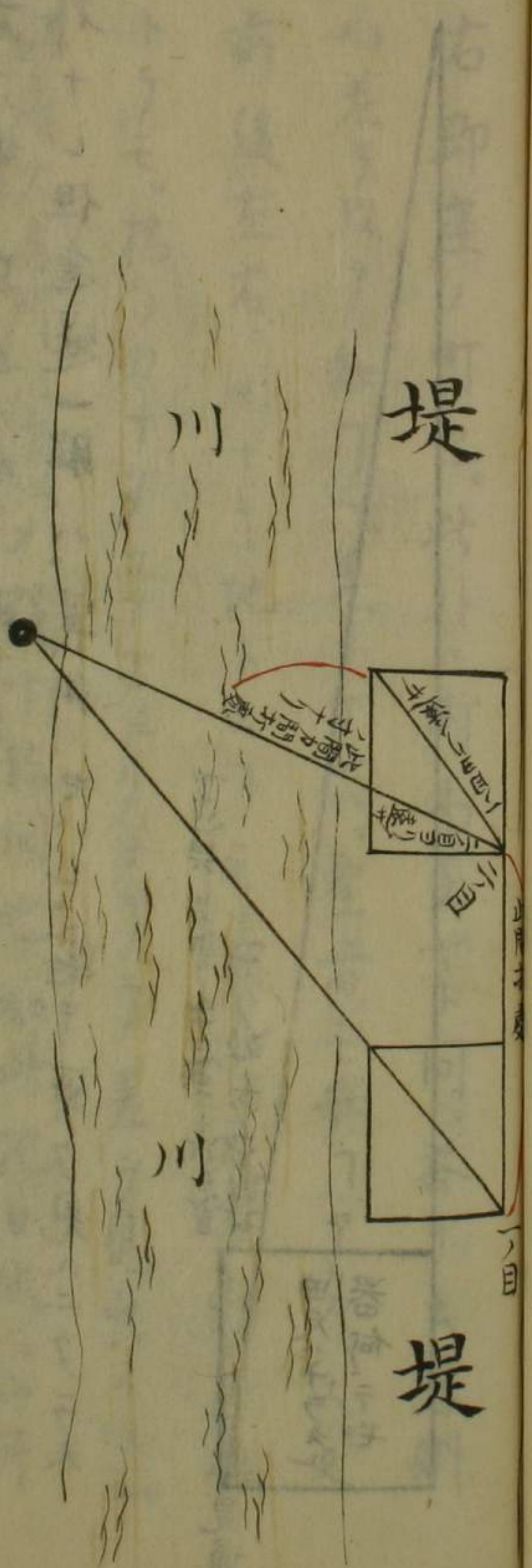
勾ハ曲リ上リタル形ヲ以云タルモノ也。股ハ。叙股
 や。唐人ノ叙シ此ノコトリニ。長キ方ヲ股ト云。筆法
 ニ古叙股ト云モ是也。人ノ股ニタトフ叙ヲ發ニ夾ム
 トキモ。股ハ横ニメ。勾ハ上ハ曲リ上ル。弦ハ弓ノツルニ。勾
 ノ頭ト股ノ尾トヲ。斜レシ弦ヲ引テ以。弦ト云名
 出タリ。勾股ハ地也。弦ハ天也。天地ノ形ソナハ
 レリ。上ノニ圖ヲ以考ヘ既フヘシ。勾股弦ノ注。算
 家ニアリキ況アル故ニ今モハニ況。畢克鬻治モ
 地圖モ。勾股弦ニモルハナシ。全ク人意ヲ入
 レス。天妙ノ形象也

進退二変圖式

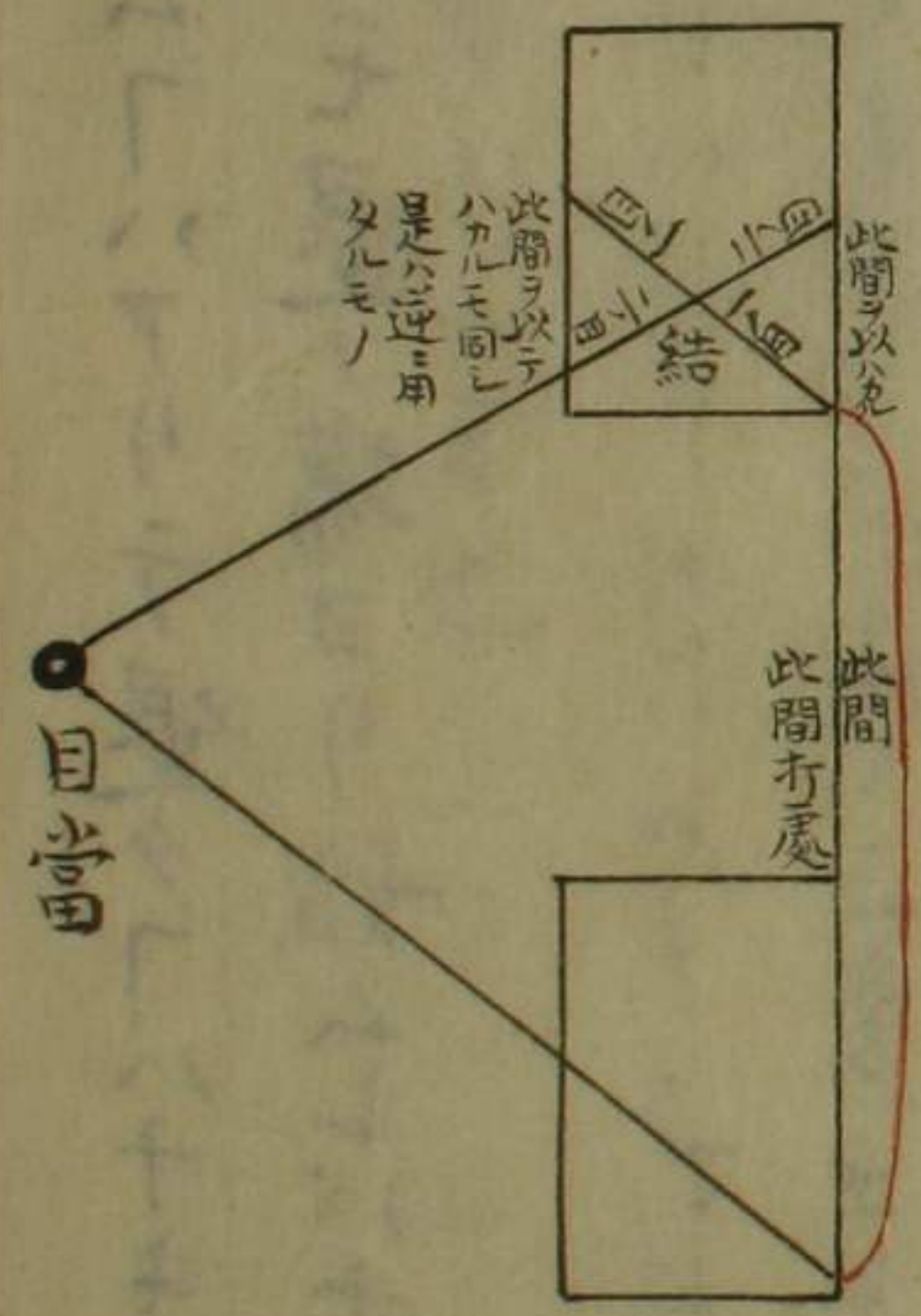
右六変外。進退二変アリ。田道客道左右へ用クヘキ地ナキ時ノ用也。ナレバ。僅机案ノ上ノ術ナレハ。遠所ノ用ニハタラス



又目當横ニアル時退進シテハカル術



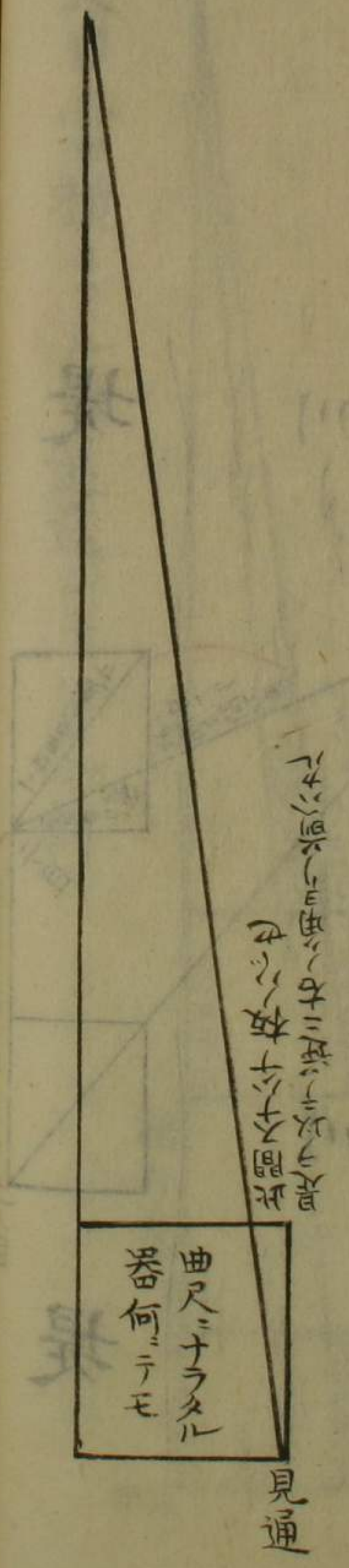
右ノ術ヲ横ニ平町ニ用テモ同理也又向へ行過ル時此圖ノコトシ



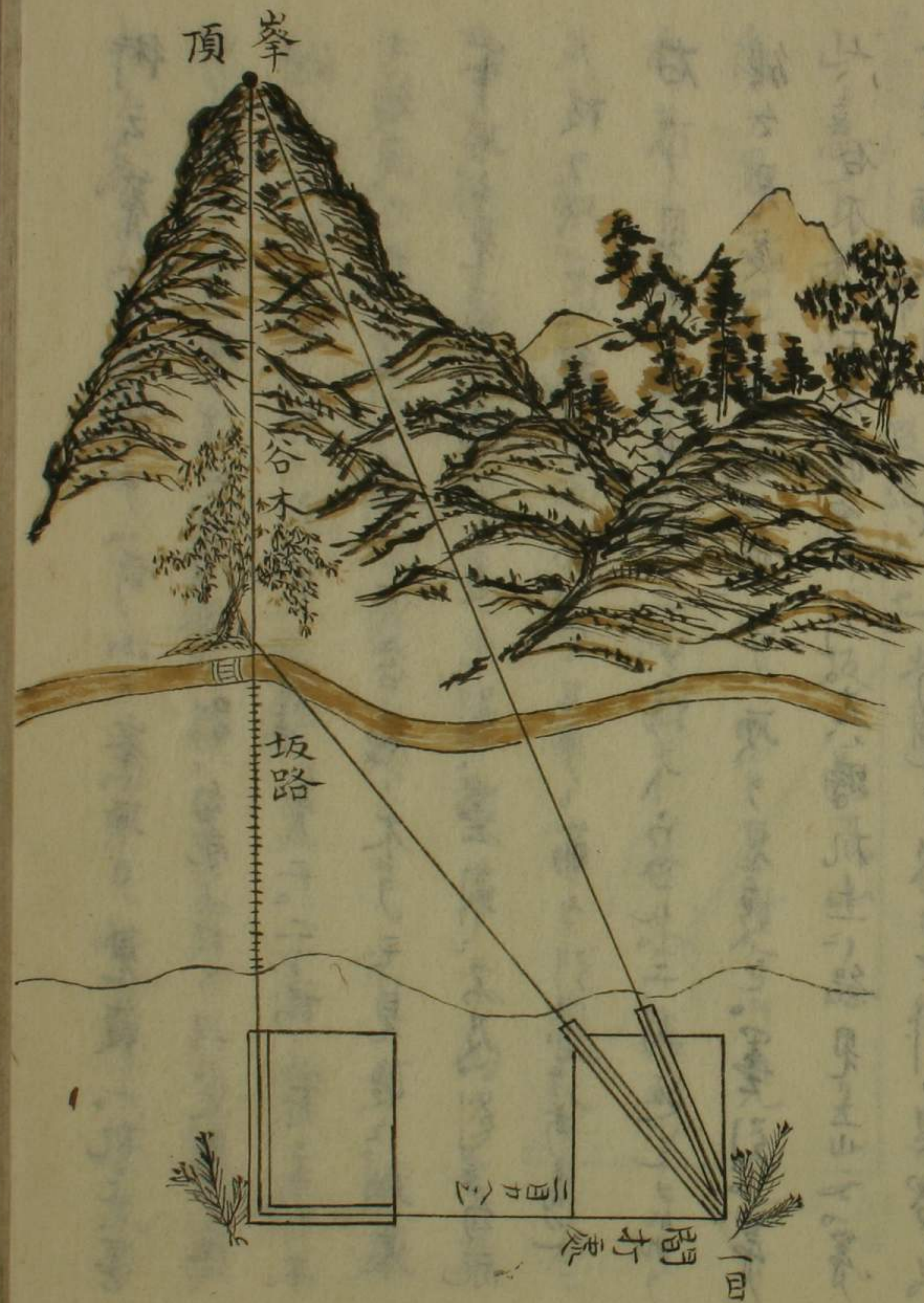
右進退トイハ進ムコトハアリテ退クコトハナキ也イカント
ナレハ一之目イツモ退ノ場ヨリ始ムレバナリ

方器一瞬圖式 即不進退法

右六變ニ進退ニ變ト此一瞬トヲ九變トモ懸測ノ道此
外ナシ但進退一瞬ハ其術セハシ遠キ所ヲ見ハニタラス



右即座ノ町也。此外ニ術有左ヤト問。答テ云懸測
ハ差ヲ以テ知コト。差ナケレハ聖者モ知コトアタハス。又
前後左右ニ開ナキ地ト云コトモナキ也。天台山ノ石橋
トナモ。橋ノカナタコナタニタヨリテ差ヲ見出スヘシ。
江府大名所ハ丁ニメ核十餘間也。如此地日域ニ所
ナシ。懸測ニモ不及。同ナリ知地也。諸藩トモニ詮議
明メ用ナキコト多キモノ也。右ノ三變モ学者若心ヲ着テ
六變ノ内へ取マハレテナスヘキ也。故ノ外ニ氣
轉アルヲ達者トハ云也



ノ山ト空間幾何ナリ。谷云。各幾里幾所ノ幾間

山溪山心曲坂一瞬妙法圖式 勾配所是
 地ニ山谷高低アリ。ヨリテ勾配ヲ用ニ。コレヲ知。
 遠近高下正偏一瞬ニ明ナリ。此圖式金子ヨ
 リ出タリ。後又是ヨリニ簡易ニスル人アリ。簡
 ニ過タリ。此式甚好。知便 柳軒歿スル所アリ。
 是圖ハ右稟矩ノ用キニ。ハ変化ニ准メ知ヘシ。
 同。前ニ高山深谷アリ。今ニ立処ノ地ノ高サ。前ノ高
 山ト高低幾何。前山ノ高サ幾何。谷ノ深サ前
 山ノ下タシ幾何。立処ノ山ノ地路幾何。前山ノ
 心ト立処ノ山ノ心ト幾何。前山ノ峯頂下。立処

術云第一ノ場ニテ。前山ノ峯頂ヲ見渡シ。机上ニ墨
ヲ引上ノ平地ノ法也。下階微之 別ニ勾配ノ板ヲ以定規ノ高
低ニアハセテ板ニ筋ヲ引也。向高也 第二ニ二ノ場ノ目下し木
ニ見渡也筋ヲ引。第三ニ谷底ノ木ヲモ見渡ス。此木
峯頂ト見渡し同しケレハ。別ニ墨引ニ不及。別ニ勾配
ノ板ヲ以。定規ノ高低ニ合セテ。筋ヲ引。前高也
右一ノ目術也。第四ニ二ノ場ヘラツル。二目返しノ筋ヲ
能々見渡し。第五ニ前山ノ頂ヲ見渡し。墨引。第六
六ニ谷木ヲモ見渡し墨引。其時機上ニ結見ユル也。第七
七ニ一ノ目ニ目ニテ取タル勾配ノ板ニ墨引アル帛ヲ。

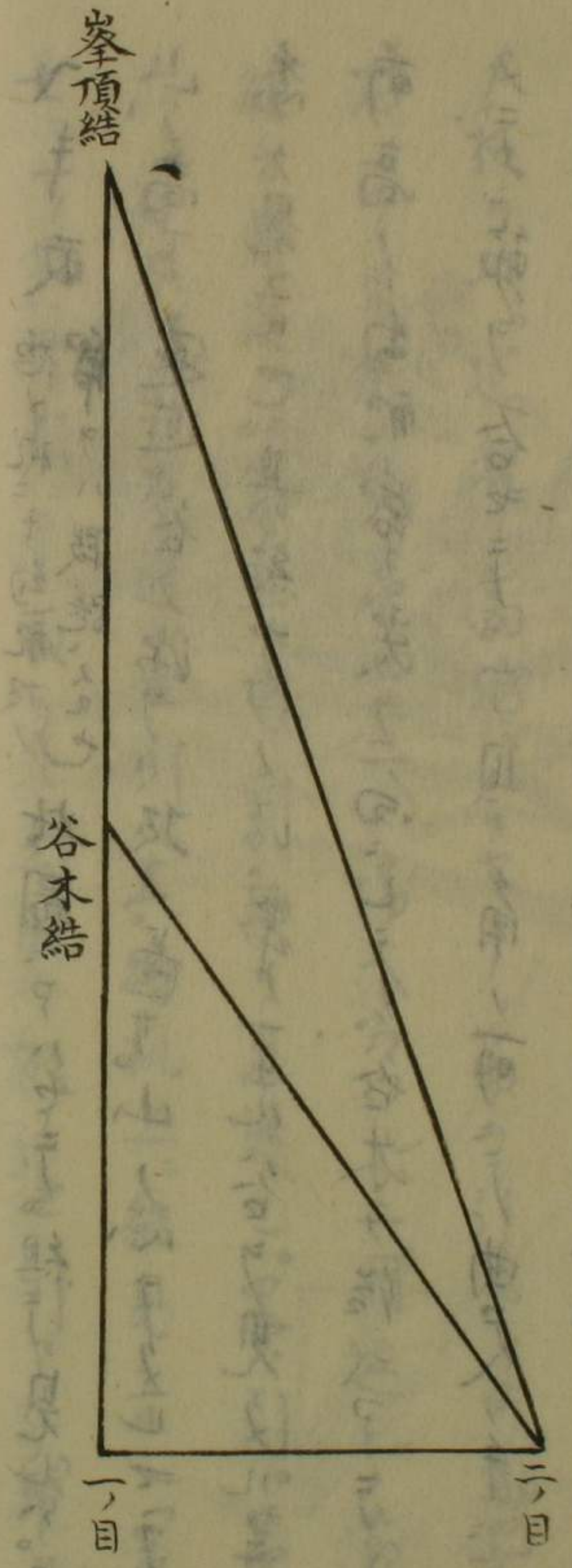
ヘキ取

惣メ机ニテ勾配板ノ帛ヲハ假造ニシテ

此圖ニアハセテ。組テ見レハ。二

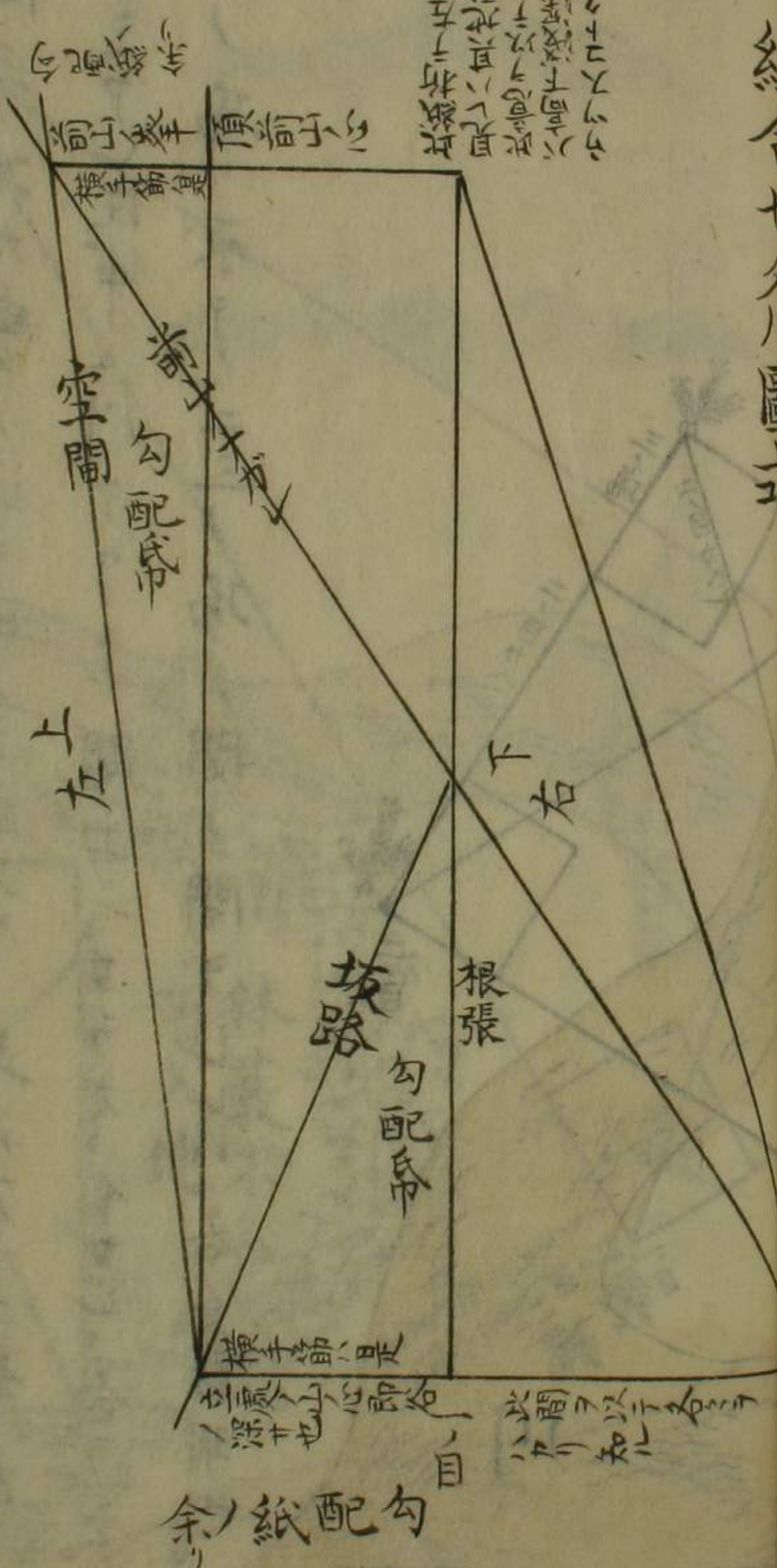
山ノ高下遠近。谷ノ深サ。坂ノ長サ。山ノ心ヲタシテ。一
悉ク見ユル也。其結ヤウノ法。第一先谷ヲ見タルキ
前高ノ勾配帛尖ヲ向シテ。谷木ノ倍ヘアテ、
タニニ筋ヲ合セテ。一ノ目ノ角ノ可ニテ曲尺ノキニ合
セテ。横キ筋ヲ引。是ヲ石勒。第二ニ向ノ峯頂
ヲ見タル。向高ノ勾配帛ノ尖リヲ。前ニシテ彼板
キ筋ノハシノ角ニアテ。直シ置キ。峯頂ノ倍ニ
ヨリ曲尺ノキヲ合セテ。横キ筋ヲ引。是前
山ノ高サ也。第三ニ前山ノ高サノ如ヨリ。谷木ノ

結こへ竹脚ヲ引。是前山ノナメレ也。如右但立テ
 見レハ。各明白見ユル也



組合セタル圖式

此圖ハ
 西ノ
 山ノ
 形ヲ
 示ス
 其ノ
 頂上
 三ノ
 折リ



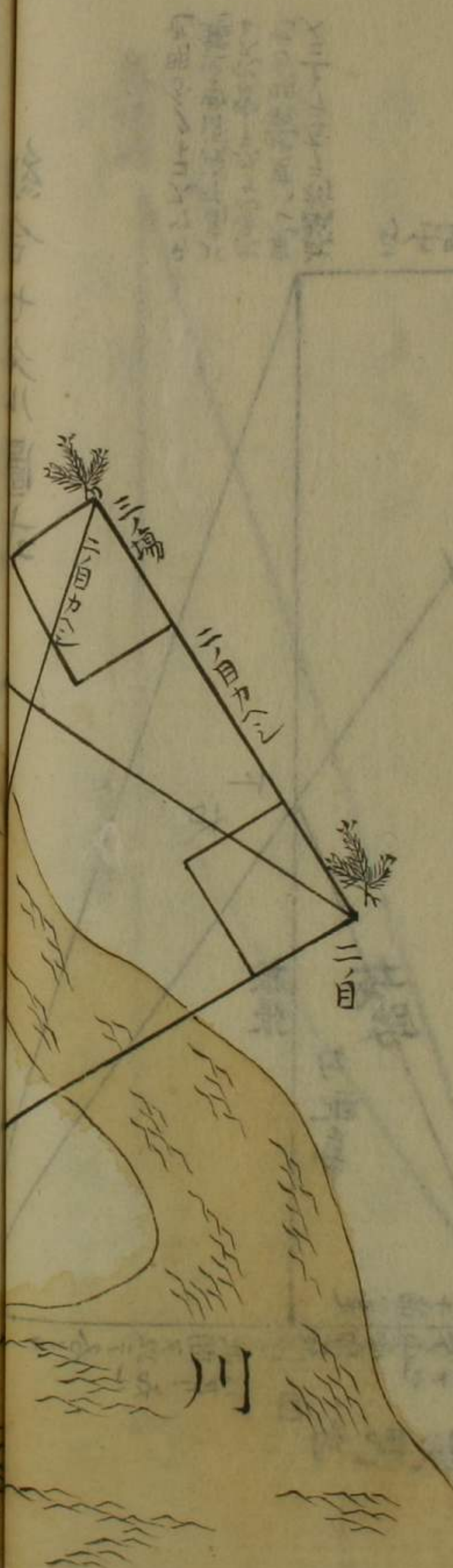
余ノ紙配勾

右ノ圖式能ク玩フヘシ甚藝古ナル也秘中秘也

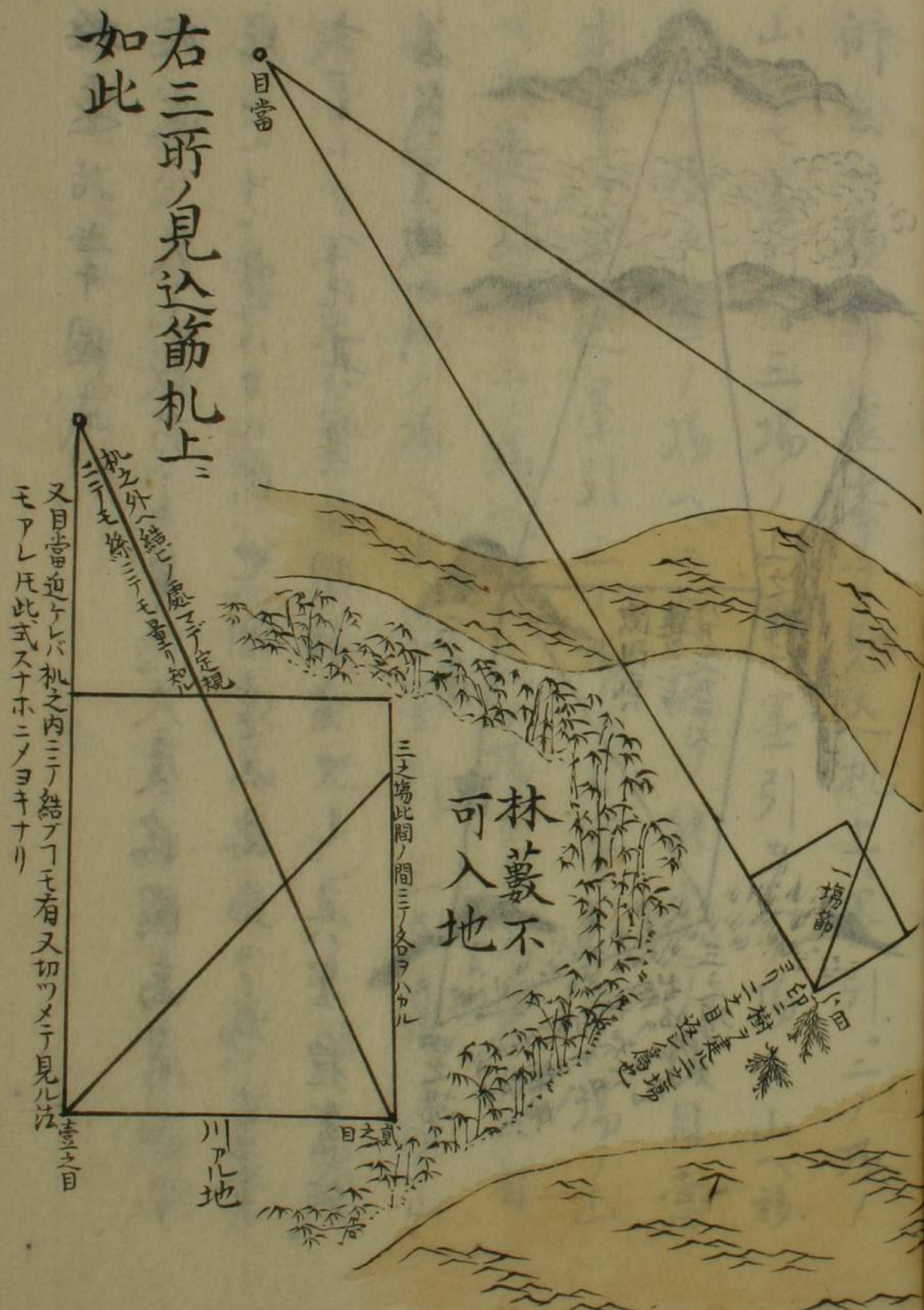
險難懸測式

左右前後共ニ地放アリシテ開キヲ平メ。間ヲ

亦不便ヨリテ。或ハ川ヲヘタテ向ラニノ場トシテモ。
 水ノ上間ホヘカラス。ヨリテニノ場ヲ来メテ知セ此
 機變ニノ地形ニ應メ智ヲ用ユヘシ
 間。平地九變又ノ法ヲ用ヒトスル。此六右真能ノ開キ
 ノニアシ凡中ニ川アリテ開ホヘカラス。イカシ。答ラズ。
 ニノ場ヲ来テ。ニニノ場ノ間ノ間ラシレハ。各々啓明也。



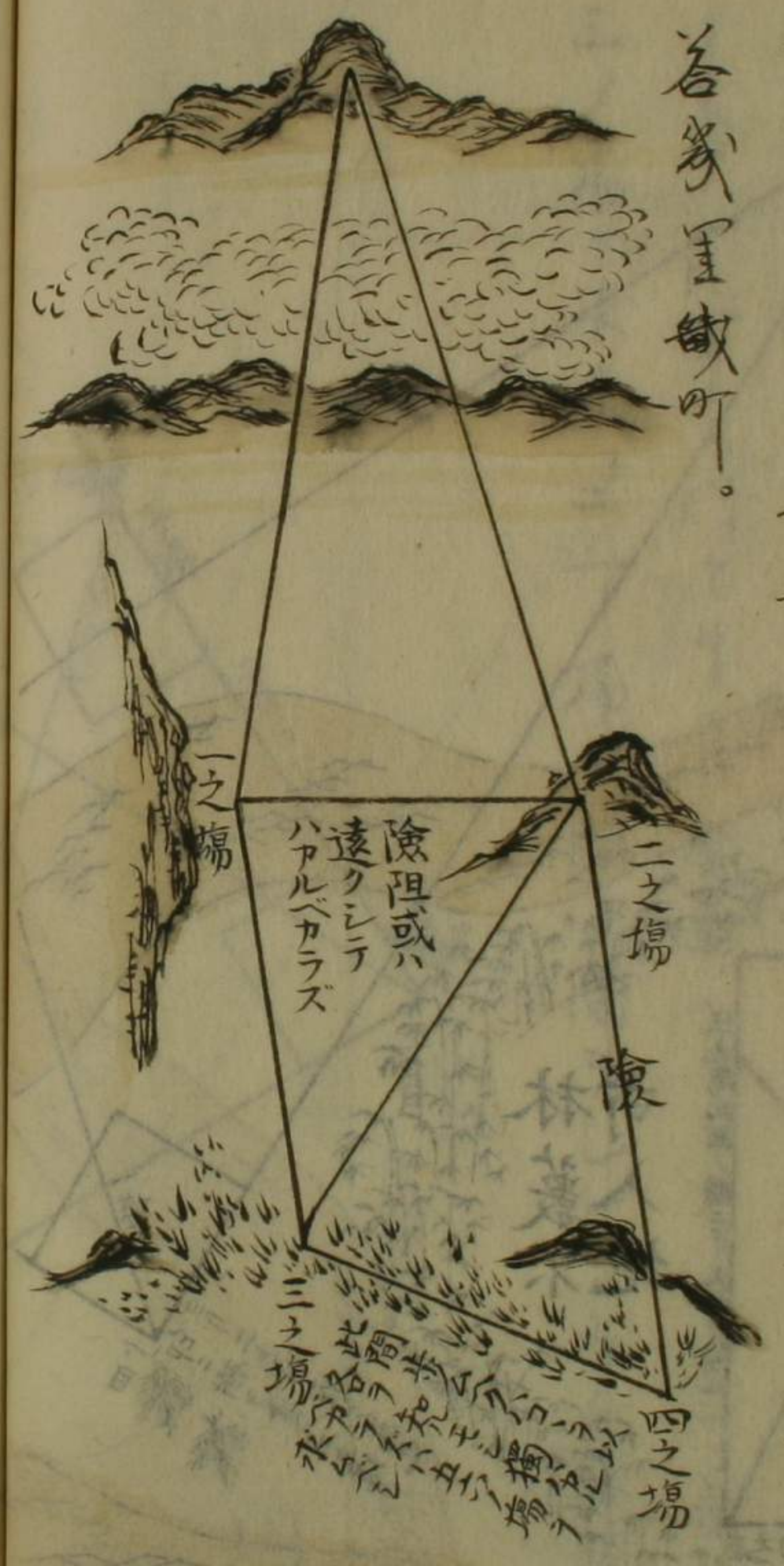
右三所ノ見込筋机上
 如此



又目當進ケル机之内ニテ結ブテ有又切ツテ見ル法
 モアレ凡此式スナホニノヨキナリ

極遠指掌圖式

極遠ハ。大山數百里見へ。大度瀉圖高嶺抽テ見ユルヲ。窺ハカル術也。問遠山海路ヲ場。古來幾十里トイヘ凡其實ヲ明指者ナシ。其里程幾何。谷幾里敏所。



術云一之場ヨリ遠峯ヲ見込机上墨引。二ノ場ノ山へモ墨引。三ノ場ノ山へモ墨引テ二ノ場ノ山へ後ル二ノ場ヨリ一ノ場へ二目返ヲ能定テ後目當遠峯ヲ見込墨引三ノ場へモ墨引四ノ場ノ山へモ墨引テ三ノ場へ後ル二ノ場ヨリ二ノ場へ二目返ヲ能定メ四ノ場へ見込墨引三四ノ場ノ間山路ニテモ平地ニテモ間抄ヘキ地ナレハ其間ヲ求テ各々ノ遠里ヲ知ヘシ但三ノ場ヨリハ遠峯見ヘス氏コハヲ以カシコヲ知ルニ夕カフフ丁シ此圖全る作之今師解チラズノミ

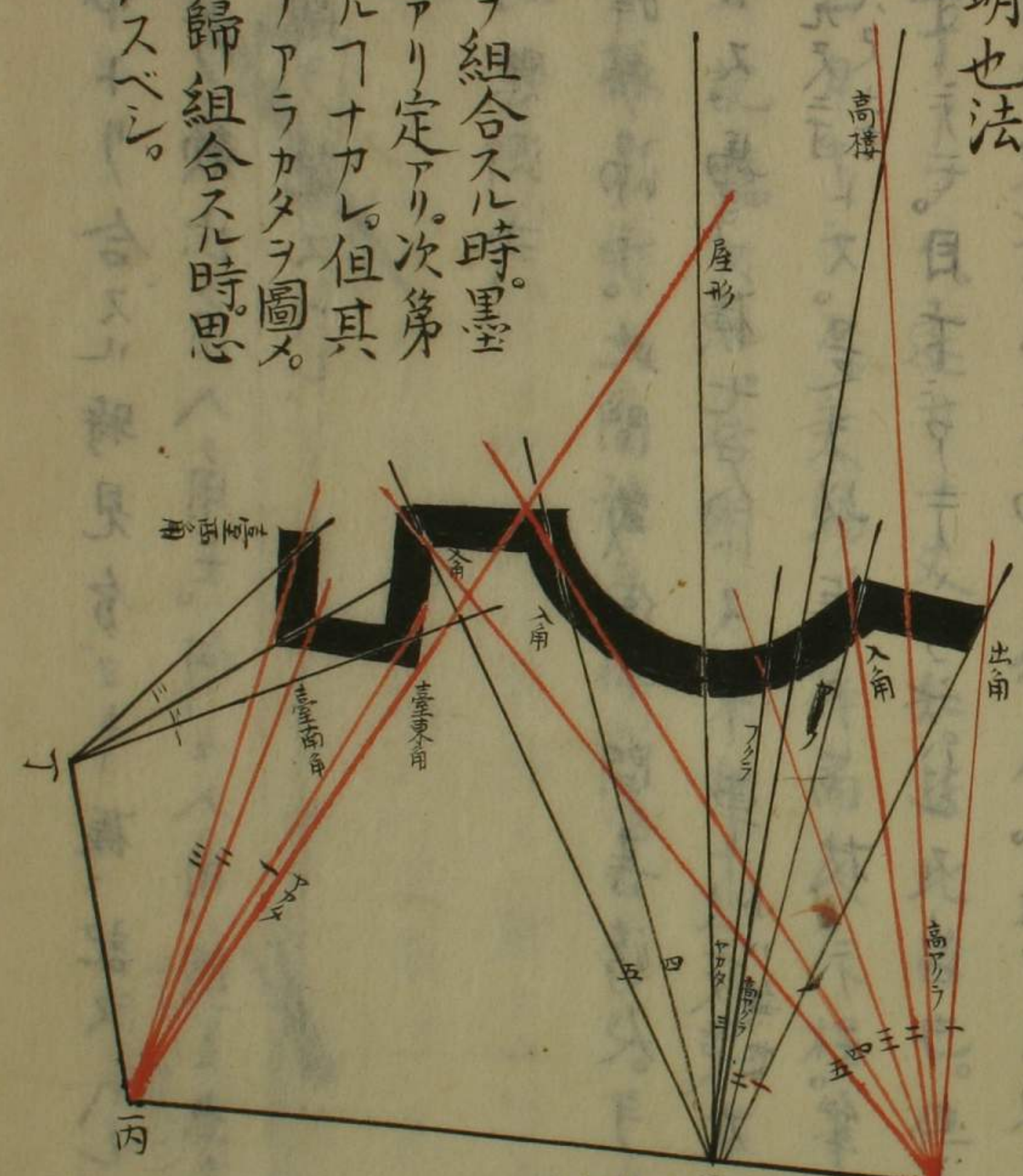
秘傳地域圖法大全書坤卷上冊終

秘傳地域圖法大全書坤卷下冊

城郭巡視圖式

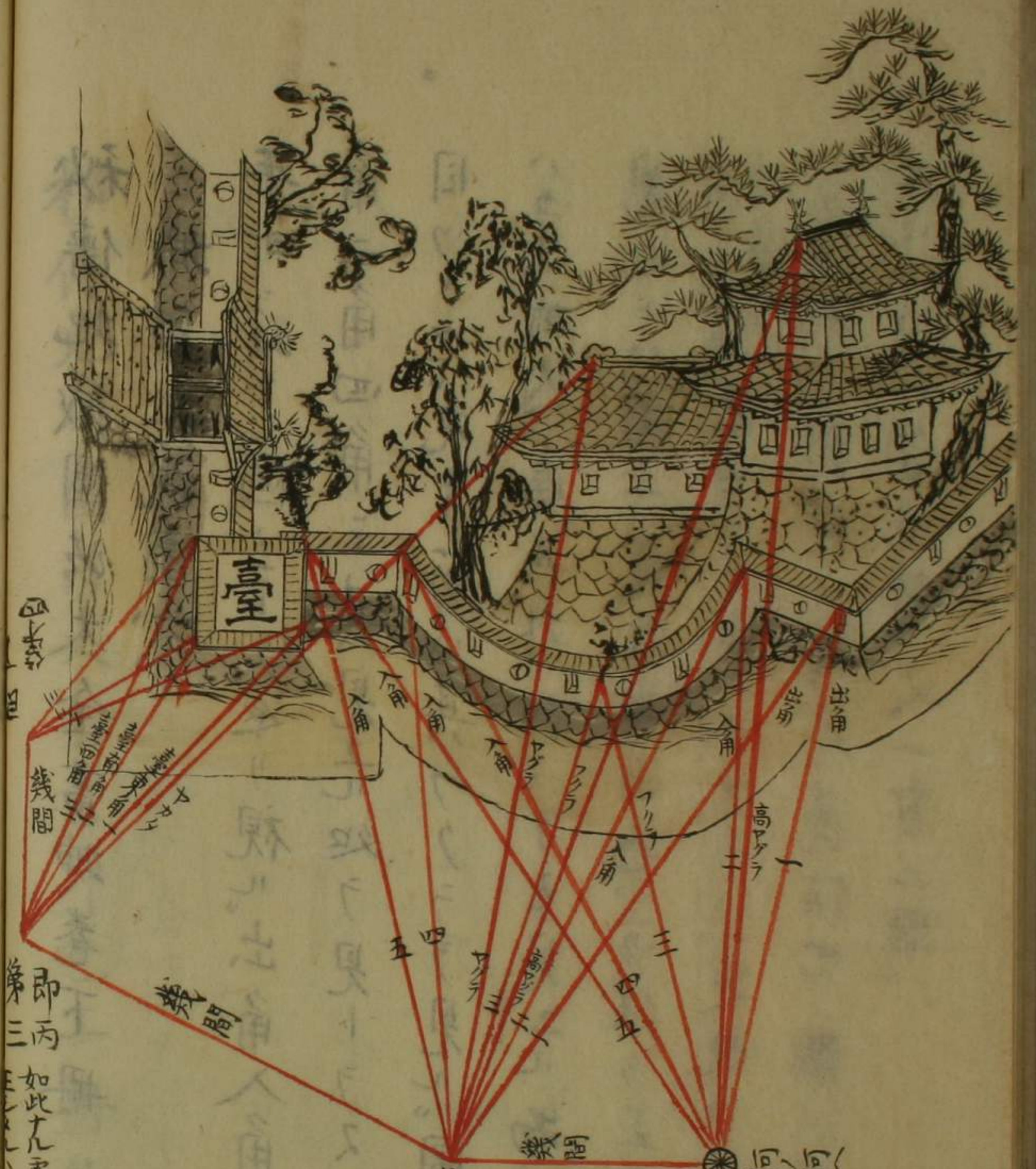
平町ヲ以テ。圖ノコトリ巡リ視ル。出角入角ヲ。一目ニ
 角三角四角モ其見ユル如ク見トラス。一角ヲニ
 目ツ、也。九キ一所ハ其フクヲ見ル。圖上ニテ圖ヲ
 ハカル。城内ノ屋其外何ニテモ見ユル物。皆西可ヨリ
 見込メハ。圖上ニ遠近明白也。方位ヲ正シラスヘシ。ハ
 トロシナラス凡
 子ヲ盤針可也 高サヲ知レトナラハ。定規ヲ勾配板ニ
 ツス。或ハ自在ノ曲尺甚佳也。圖ハ一分十間。大
 スルニハ。一分五間。又一分二間。

凡紙ヲ組合スル時墨
引虚アリ定アリ次第
ヲ乱ルナカレ。但其
地ニテアラカタヲ圖メ
持テ歸組合スル時思
ヒアハスベシ。



乙
子午盤
針ヲ以圖
紙上置
方位ヲ正

右甲乙丙丁ノ帛ヲカサ子テ組合セ。スカシ写シテ圖トスル時
分明也法



第二
即乙
初一ヶ處ニテ方位ヲ正
第二ヶ處ヨリ紙上墨ヲ
ヨシ

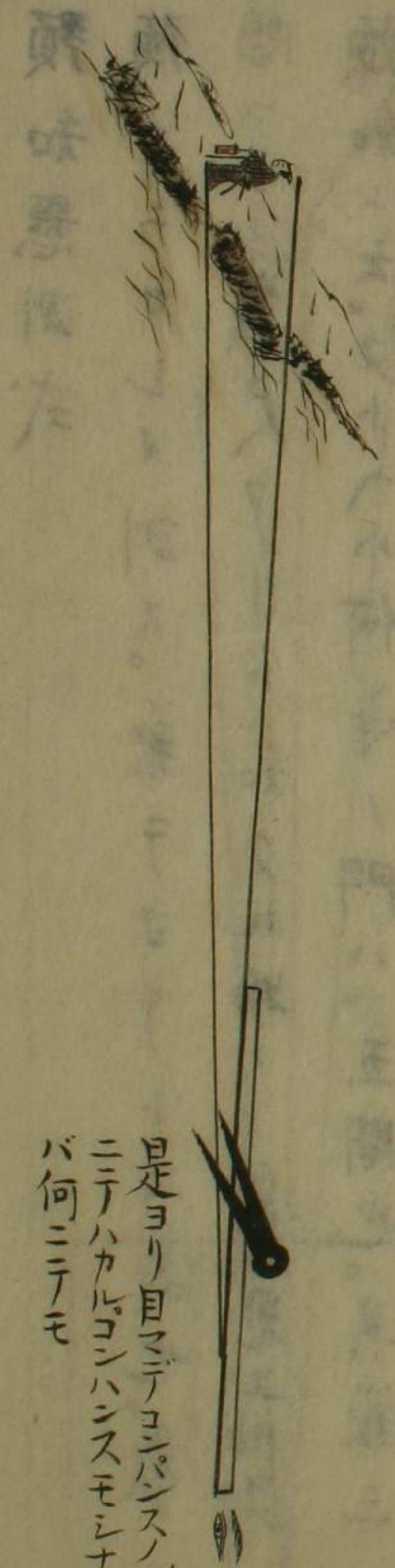
即丙
如此九處ニテハ又方位ヲ

右帛トリ合スル時見方ヨキ様ニ記スヘシ。甲ノ
 一二三ノ類出角入角モ。何々入角。何々出角等
 不簡ヲ記スヘシ。

人馬懸測式

川澤ヲ過テ。此間幾何ト問其法人ヲ墜五
 尺トス。馬ヲ横セ尺トス。牛車大ニ丈ニ尺
小ハ無セ大八車
 ハ大九尺ニ寸
小ハ尺ニ寸トス。是ヲ以矩トシ。杖ニテモ。竿ノ
 柄等ニテモ。目下ニアテ。コシハンスノ口ヲヒキ。
 并テノバシテ。其物ヲハサシ。其口ヲ以テ。我

目ノカタヘ。ハカリテ知。人ヲ以テハカレハ。其
 数ニテアラハ。遠サナ丈ト知。皆此法也。但人馬
 車ニカキラス。乗物ノ棒高人人梯等述モ。
 常ニ記憶スル。此術ノタシナシ也。右ヲ右
 傳ニ様シノ町ト云。種ヲ植ル法モコレ也。下ニ出ス



是ヨリ目マテコシハンスノ口
 ニテハカルコシハンスモシナク
 バ何ニテモ

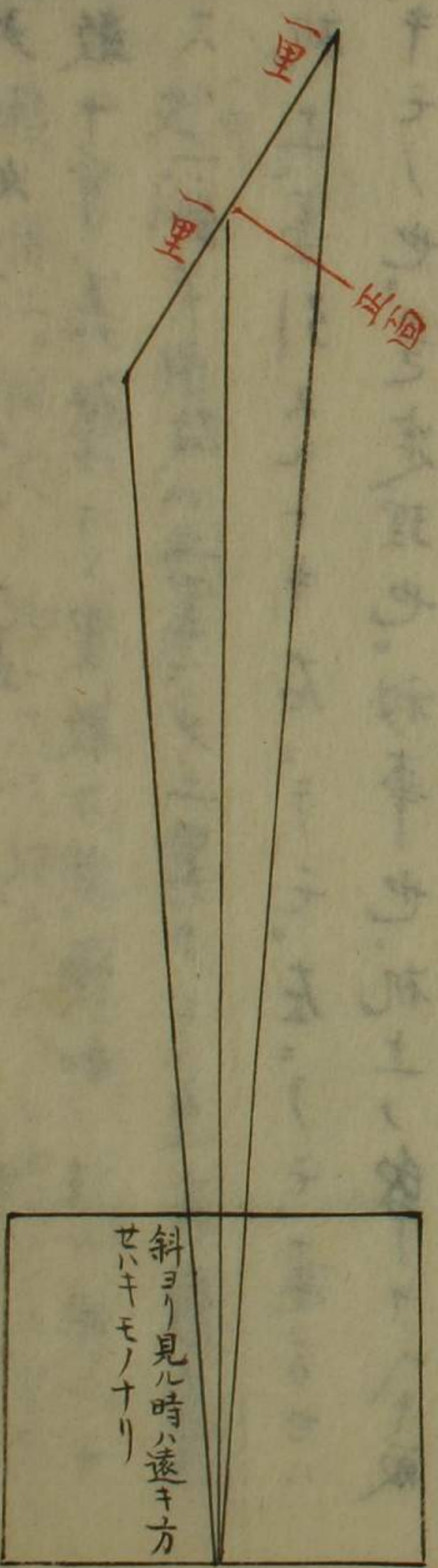
預知懸測式

預ハアラカシメ訓ス。第テヨリト云義也。或
 間アリ教尺アリト。知タル物ノ。途ニ見エラ
 預知ト云。タトハ何寺ノ門ハ。五間也。其家三
 尺ハリト知寛一間也。二間也ト。慥ナルヲ云。人
 馬懸測ト同法也トイヘ凡。正トキフ。人馬ノ
 大法ナルニマサル。但其見エル物。正面ナレハ正
 之。斜ナレハワマル。然レ凡。至テ少しノ斜ハ論セ
 ス。二十ノ一ノ斜ニ至テハ。味。野入
 目ノロクハ。ハカシメテ入ル。

斜懸測式

斜懸測式 二斜上層ニアリ詳書ノ十キ第一置ヘシ
 預知ノ法ヲ以テハカルニ。見ユル物斜ナリ。ナレ凡
 左右中ニ目アテニアリテ。其間相去リテ
 何ト。第テ知タルヲ見ル法也。遠キモノハ。其斜
 ノソケヤウ。知カメシ。ソレヲ知ラ以。一術ノ奇トス。

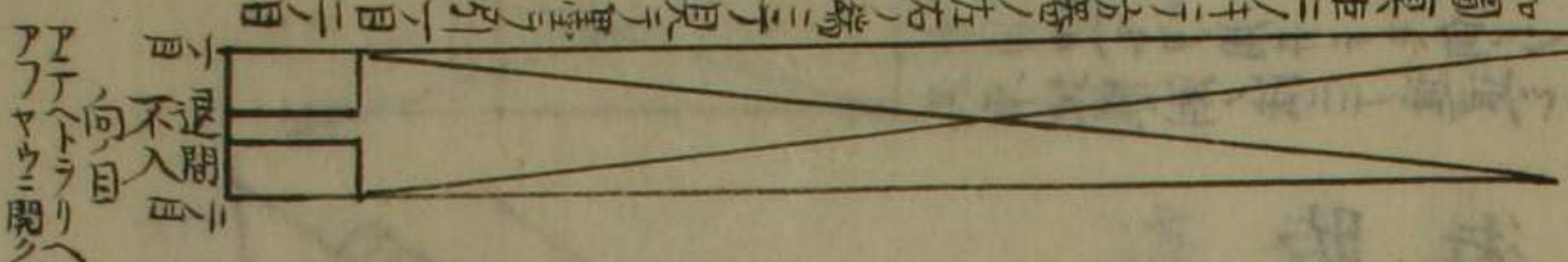
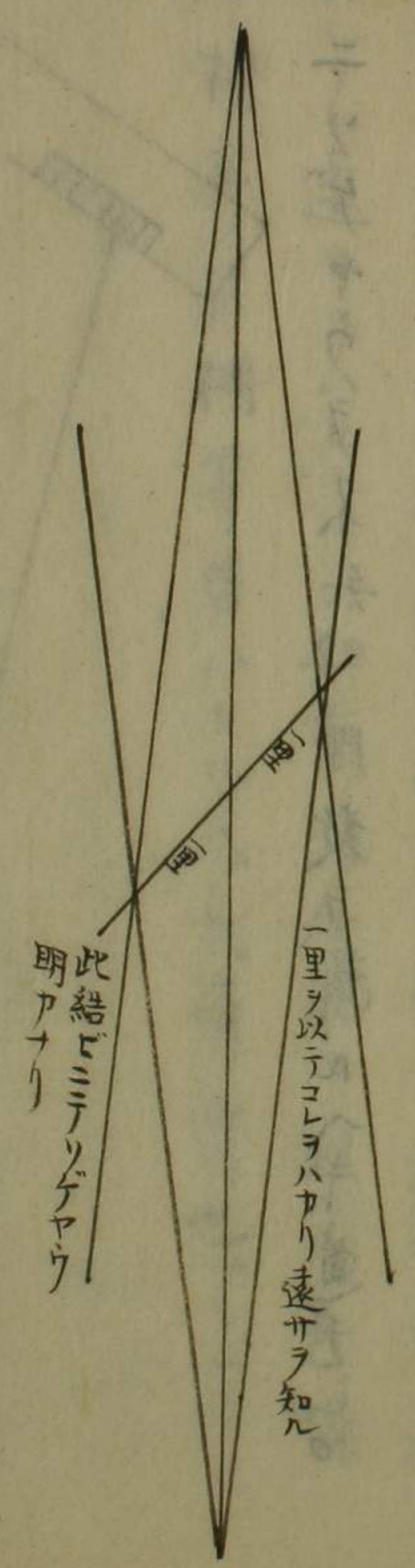
二斜預メ幾間幾尺ト知ルモノ見エトノハ氏教斜ナレハ具ノ
 後今具教斜ノトヤ少明白ナレソノ種ニ遠近ノ量ハ



斜ヨリ見ル時ハ遠キ方
 セハキモノナリ

此ノ如クソツケヤウ一直ニモ。其ニツノ間モ。同シ里
 数十リ。其知マテ里数ヲ問。預知ノ法ヲ用ント
 スルニ。斜ナル故ニ二里ニメニ里タラス。其時ノ法
 机上ニ墨引スルトキ右ニテモ。左ニテモ。遠方セハ
 キモノ也。是定理也。秘事也。机上ノ帛ヲヘキ取
 テ。又薄キ帛ニ能々念入シ。影摹シ。一牧ヲウ
 ラヨリ。中節ヲ能々トリ合セテ見レハ。其紐
 合ノ緒ニテ明白也。其ソケタルナリニ。コニハ
 一スニテハカル。是真ノ里数也。正面ト一理ニ
 ナル也。ソレヲ種トメ。其遠ナリハカル。法ノ

ゴトシ

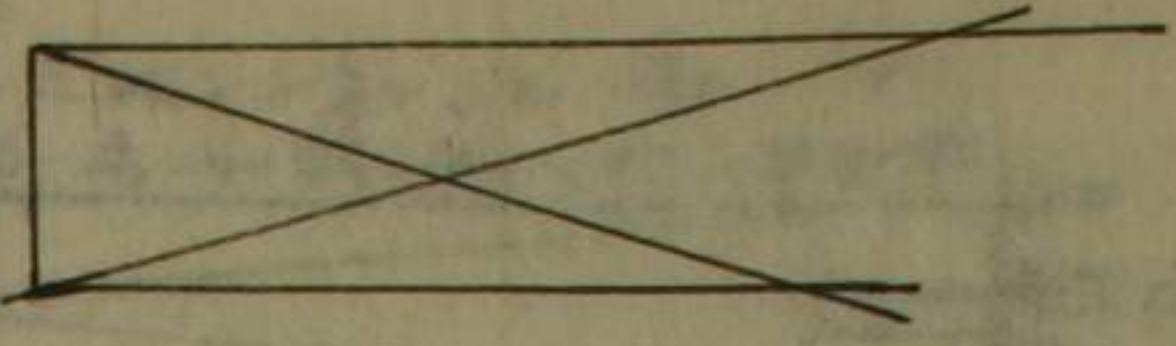


又川ヲ滿テ。長屋ナリ。窓ナラヒ見ユル。一問窓ト
 ハ知タレト。斜ニメ見カタシ。右ノニ斜ノ法ニテ。一
 轉メ用ユ。同尺ノ物。六ヲ以テニソト四ツトニ分テ
 見ル。机上ノ墨引如此

アテ下ヲリハ
 ママニ開ク

如圖真矩ニハナリカ。左ノ端ニテ見テ墨ヲ引テ下田ニ田
 カムニキヤク明ナリ。其ノケヲ以テ墨ヲ引ナレ
 ○此所多クハ文字不

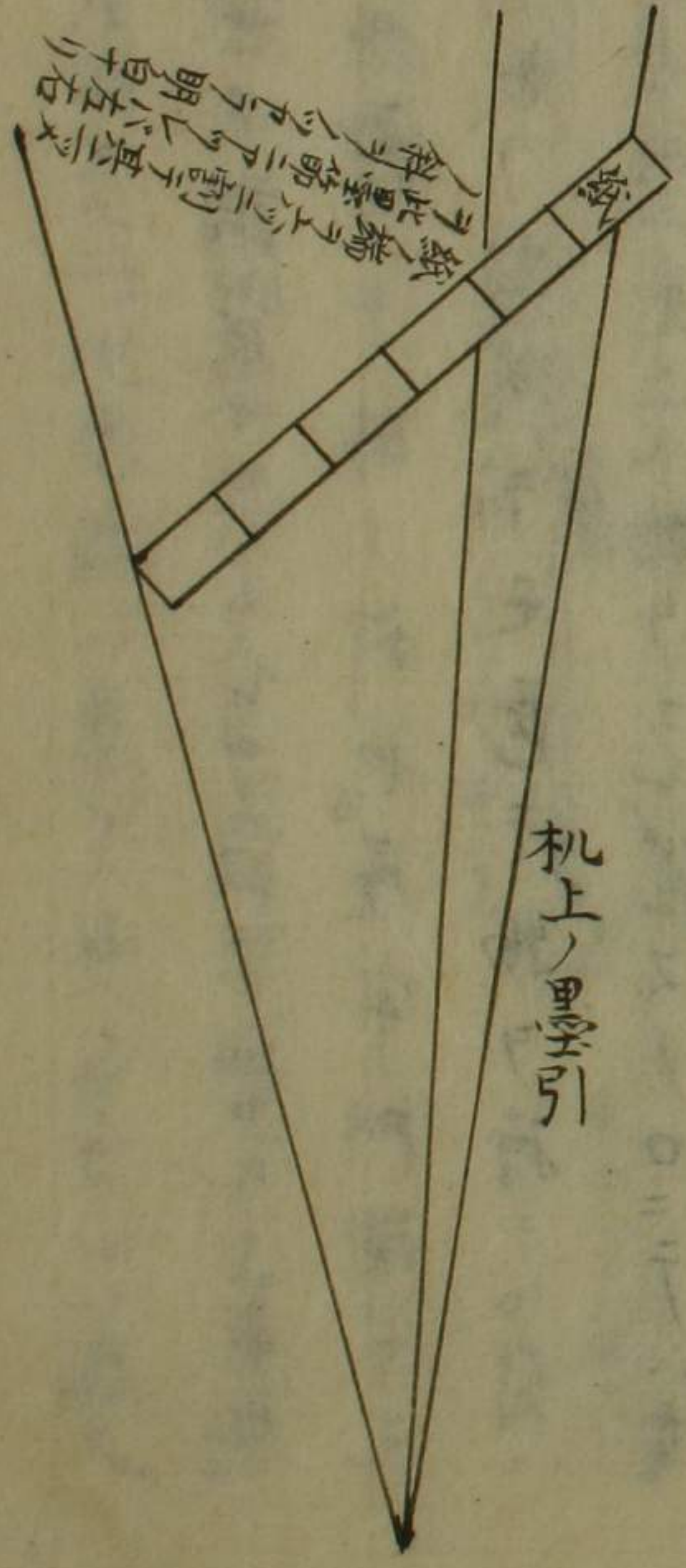
又平地懸測之法三進退之法
 二目カニテ用井ニモ何ハヤ
 テハ明カ也



然ルニソゲヤウヲ不知ハ。間敷ヲ断ルヘキ道ナシ。
 術ニ別帛ヲ以テ。節ヲ。夕リ。ヒツニナリ。六ツニ割テ
 其右ノ二ツ目ノ節ヲ。其板面ノ中節ヘアテ。左ノハ



ツレノ節ヘアツルニ。銚ル四ツノ節。ヨクアツマテ
 斜ニメ合スル也。其アツ処昂白クノ斜ニ。其窓ノ尺ヲ
 種トシテ。遠カラハカル。如前法此法ヲ以テ。長堀
 渡リ樽席架柵等皆ハカルヘシ。奇術也。



机上ノ墨引

紙ヲ端ヨリハカレテ
 斜ニメ合スルニ
 此法ニテハ
 明カ也

槍柄懸測式

槍柄ト云ハ武士ノ調度ナレハソレヲ以テハカルノ義也。
是ハ向テ預知タル物ナキ時ノ術也。屋宇門闌ニテモ
見ユル時。其間敷ヲ問。何テモ長キ物ヲ持テ。目ニ
アテ。準トシテ。向ニ見ユル物ヲコシハンスノロニテハサ
ム。是ヲウラコカサスメ。其準トシテハシラフケ。密ヲ切テ
ヨシ又物ヨリテ向ヘ進ミ出ル。或十間ニメ。右見タル物
ヲ。右ノコシハンスノ口^クニテハサメハ。ロセハク物大キ也
因テ其ロニアフマニテ。コシハンスヲノキ前ヘヨスル。
其モトノレルシヨリ。於テコシハンスノ止ル処マニテカ。

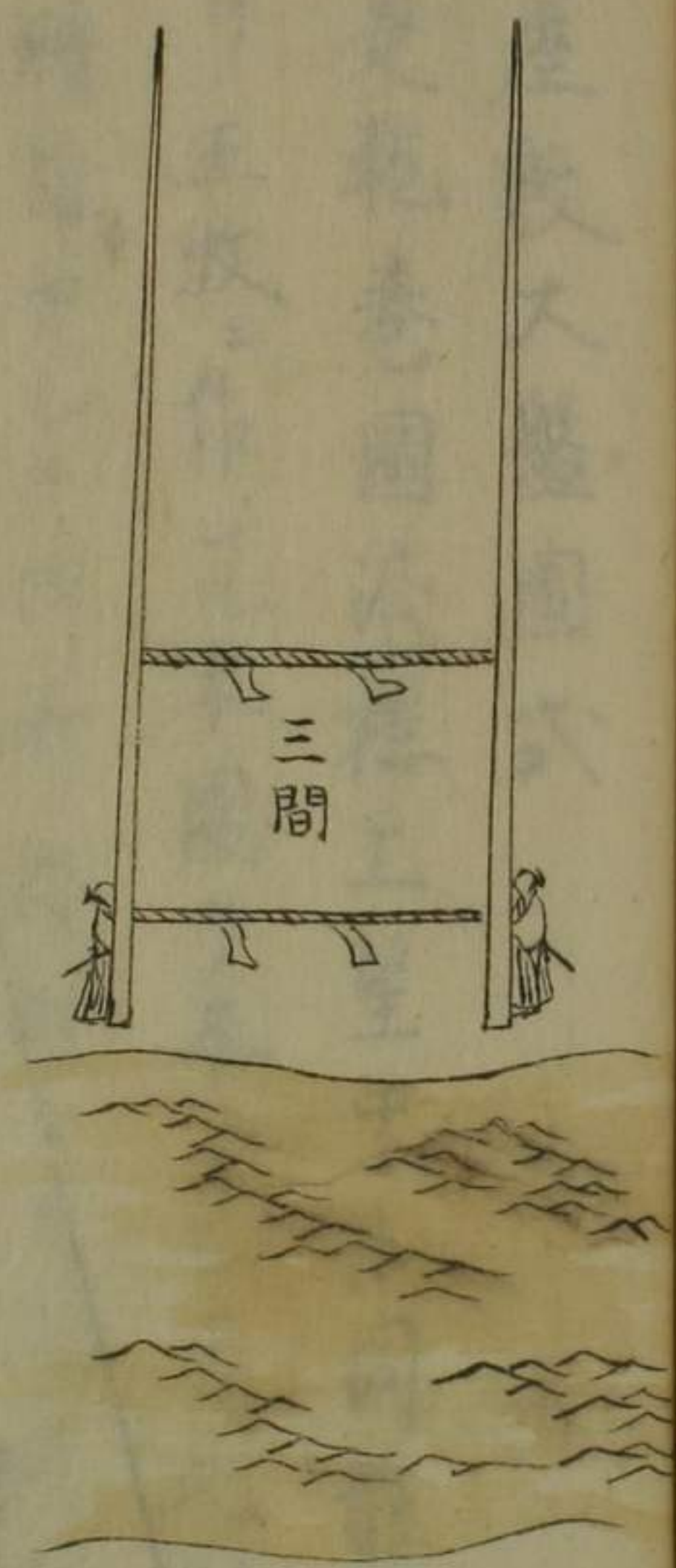
十間也。前後ノレルシノ間ヲコシハンスニテ。十ニ刻。其
口ヲ以テ。目マテノ惣長ヲハカレハ遠サ分明也。但
退ケハ。此法カラウニナル也。然ルニ。上ノ進退ニ變ノ條ニ
云コトク。進ミ場ナクハ。其退ノ場ヘスサリテ。一ノ目トシ
テ。術ヲ施スヘシ。イツモ進ニナル也。



植種懸測圖式

此術上ニ云預知ト同理也。イハ凡。別ニ條ニスル。テ。深
意アリ。地域ヲ圖スルニ。此懸測ハ意ヲ具セサレハ察又

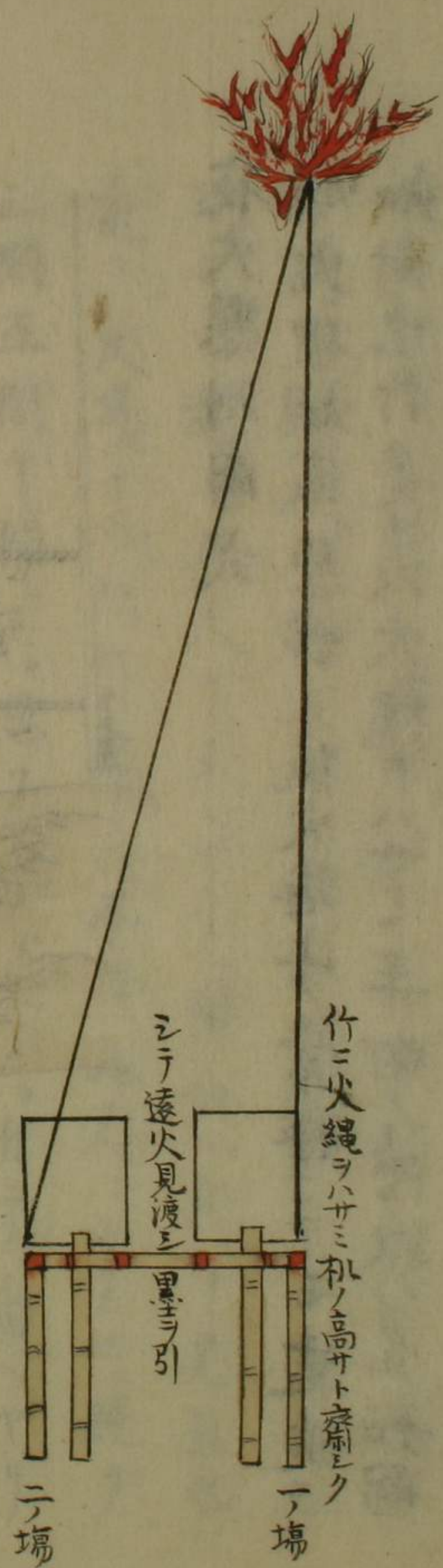
化應スルヲアタハス畢、竟道理ハ平町ノ此方ノ
開キヲコ、ニテ作りテ。向ハヤル也。因テ種ヲ植ルト
名ワル古傳極秘大渡リニ云是也。川澤ヲ隔テ
町ヲ知其川沼ノ廣狭ヲ知ルト欲ル時。近クハ問竿
ヲ持スルカ。又ハ何ニテモ一間。或ハ二間ニ作りテ。人ニ
持セテ遣シ。其人ヲタ、セテ。預知ル術ヲ見取也。
遠ク大場ナラハ、竹竿ニ本ヲ兩人ニモタセ。繩ヲ
二間五間十間ニモ。思フヤウニシテ。竹ヲ向ハヤリ
テ。遠近ヲ窺知也。竿ニ繩ノ竹ヤリ如圖
十間也。前略ナラシメ、一問ニテハ、二問ニテハ、三問ニテハ、四



夜火懸測圖式
烽火狼烟或原野ノ狐火海上ノ常燈ニテモ遠近ヲ
知術也竹筵ヲ以火繩ヲハサミ平町ノ法ヲ以ハカル如圖
一ツノ氣術也

屋敷大盤圖式

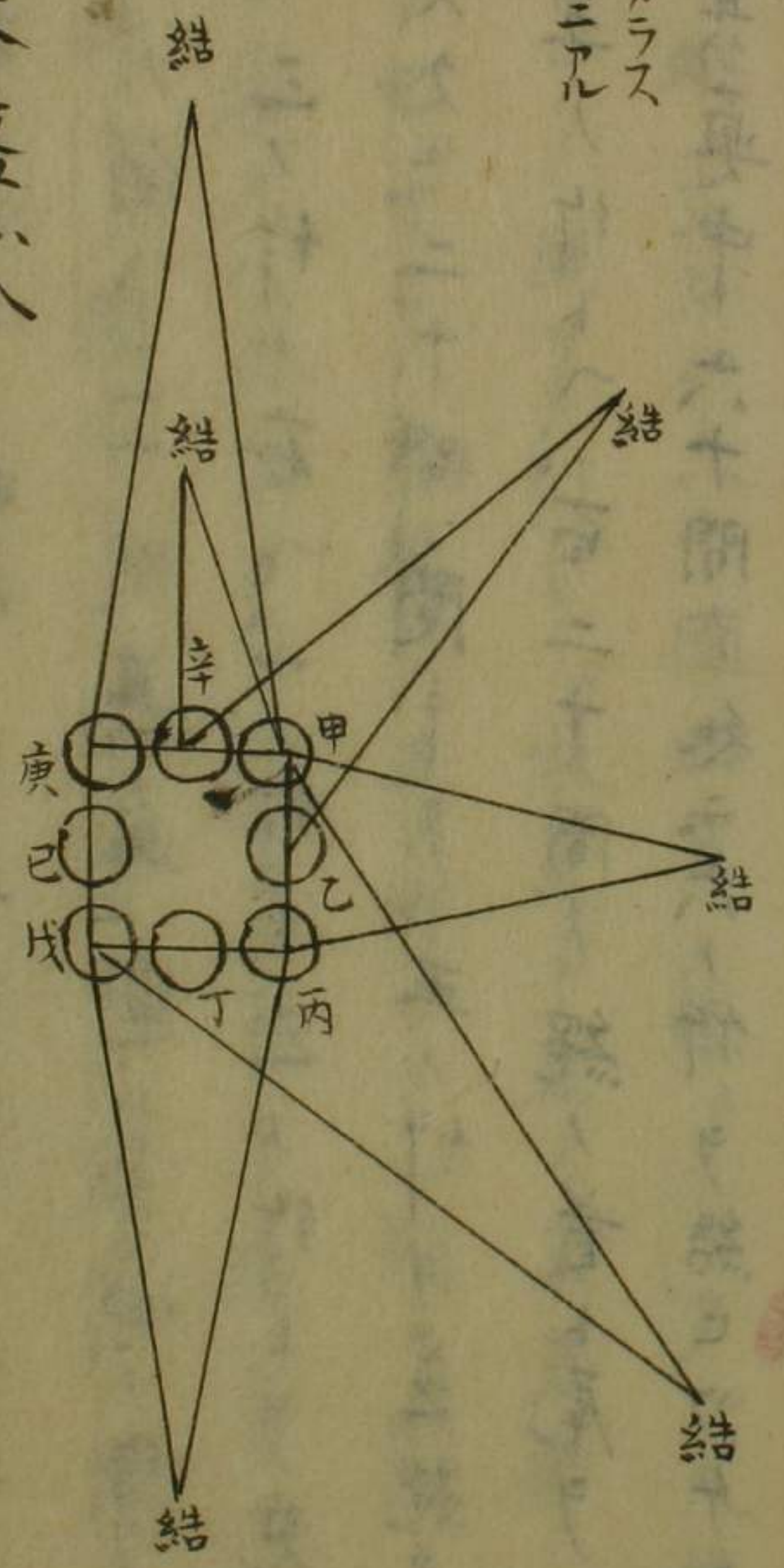
是乾卷圖法樓上望中ト同體ノ懸測也。本府
 ヲ五牧ニ作レル本圖ヲ本トシテ。此秘ヲ授ス火災ノ
 時誰ヤシキ何所歟所トサス術也。其法右ノ本
 圖ヲ以。其屋シキノ在知ヲ正シクシテ。其竿ノ宅方
 一町ナレハ。三十倍ノ間ニメ。其知ヨリ三十町。或ハ一里マ
 テノ内。明白ニ所ヲサシテ知ラレ也。先屋敷ノ四方
 四隅合テハ所ニ。クワトコワニテ立テ。入用ノ場知見立
 ルカキリハ。見テテ結ヒテ書記ス。二所ハ。本圖ノ上其
 ヤシキノ知ノ。四方四隅ノ間敷ヲ考合セ磁石ヲ置



キ。紙盤張懸棧ヲ以テ。圖ニマカセテ。係ヲ引テ
 見ヘメ処ノ方位ヲ記ス。是又一所ヲ二目ツク也。惟テ
 作り記メ曰ク甲ノ場ヨリ。酒ノ七丙ノ場ヨリ義ノ
 五ハ。何ノ所裁所メ也。丙ノ場ヨリ男ノ三。戊ノ場ヨリ
 礼ノ十三ハ。何ト云所ノ誰ヤレキト。開キテ廣クシテ
 倍ヲ知テ記シ置ハ。火起ル時。クワトロワシテ丙処ヲ立
 テ。予レメハ。其処明ニサスヘシ。又丙処ニサレワホ
 シレテ。ソレニ書シルシ置ケハ。クワドロワシニ及。屋シ
 キ大キナレハ。開廣キユヘ。ニ里ニ里ヲモ知ベシ。

星盤大盤圖式

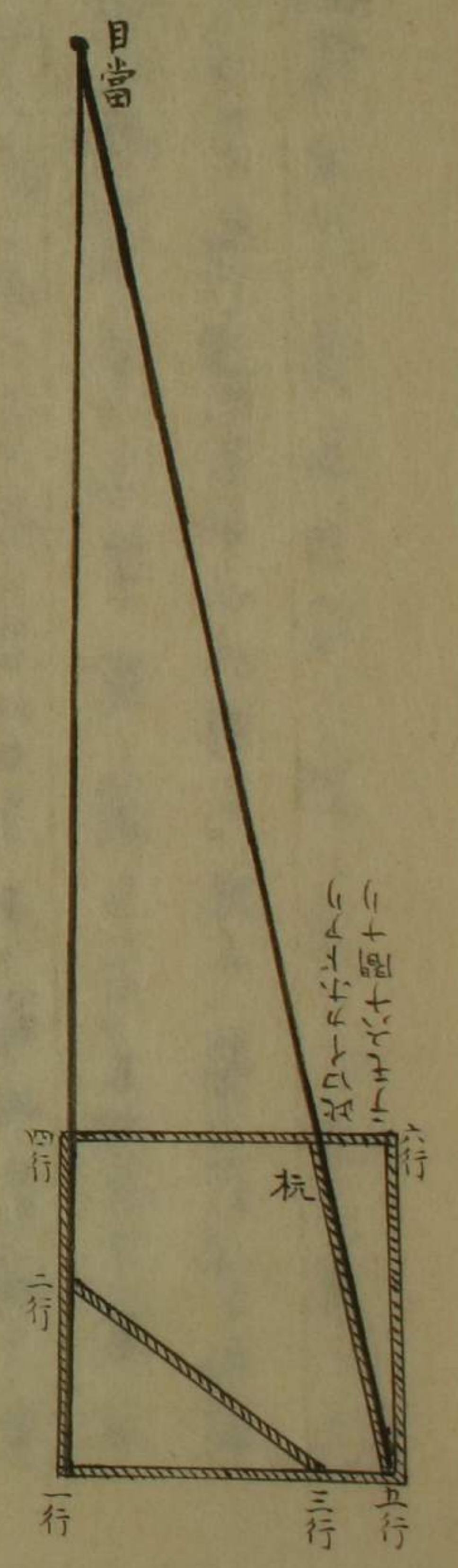
如此必シモ方正シカラス
 屋敷ノ形ニ應メ様ニル
 べシ



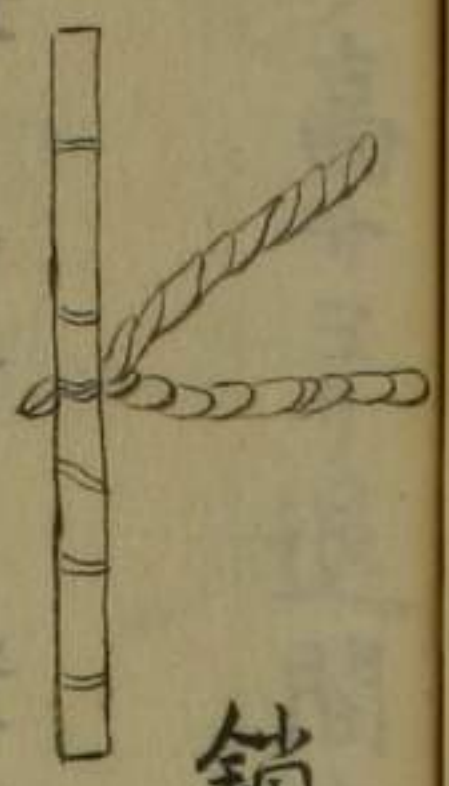
野中作大盤式

即中斜ノ町是也。目當近ケレハ校箱ノフタ。戸
 板等ニテモ曲尺ニアヒタルヲ用ユ。又目當遠クシ
 テ。事急ナラハ。繩作ヲ求テ。大方盤ヲ作ルヘシ。
 先竹六本ヲ以テ。一ノ作ヲ向ノ目當ノ通りニ立

繩ヲ付テ。真真目當ノ通ヘ進ムヲ三十間ニメ。
二ノ竹ヲ立繩ヲ結ビ。又繩ヲ五十間ニメ。三ノ竹ニ
結ヒツケ。其末ノ繩ヲ四十間ニメ。其末ヲ一ノ竹ニ結
ヒトメテ後ニノ竹ヲ持テ。其繩ノカキリ。行ツル
処ニタツル。是ニ四五ノ曲尺ニメ。少モタカフヲナシ。サ
テ二ノ竹ノ向ヘ二十間其直ニ進ニテ。四ノ竹ヲ立
繩ヲ結ビ。三ノ竹ノ右ヘ一ノ竹ト三ノ竹トヲ見ト
シテ。スクニ二十間開キテ。五ノ竹ヲ立繩ヲ引
四ノ竹ト五ノ竹トヘ。百二十間ノ繩ノ首ト尾ヲ結
ヒツケ。其真中六十間ノ処ニ六ノ竹ヲ結ヒツケテ。
其行ツル処ニ立レハ。六十間四方ノ矩ニアヒタル。大盤
トナルツルカケノ繩ヲ引キ。彼是ト正ス不及早リ
出来ルモノ也。サテ大盤ノ五ノ竹ヨリ。繩ヲ引テ。
向ノ目當ノ通りヘスチカヒニ板ヲサテ結ヒツケル。
此板ト六ノ竹トノ間イカホトアリトモ。即六十間トニ
テ。繩ニテモ。竹ニテモ。其口ニアワセテ。夫ヲ以テ。六
ノ竹ト五ノ竹トノ間ヲ。ハカリテ。幾何幾間ト知
也。又繩カナラス。竿槍ノ柄ニテモ。三四五ヲ奉ト
シ。ツリ出し。正方ナレハ同シ。地ニ筋引テモ。同
理也。



野陳營此若又常ノ屋敷モ四尺ニテハセテ取タルヨシ
 右ノ法ニテハ第一早クメタガヒナシ。三四五ヲ本ニメ
 イカヤウニモノフル也。作レ繩ヲ結ヒ身ヤウハ結ヒ目
 ニテ繩ヲバマヌヤウニスヘシ。六寸マハリノ竹ヲニメ
 クリメ結ヘハ一尺五六寸モ偏ム也。因テ細繩ヲ太
 繩ノナク目へ通シテ。ニ重ムスヒスル也。



鎖細ナルヲナレ尺格致ノ一端ナリ。

右木盤ハ中斜ニメ上ノ方畧一ノ瞬ノ大キナルモノ也
 然レニ此ニ術共ニ本法也。立方ニモ用エヘシ。塵劫記
 ニ帛折テ方ニ作り。塔ノ高ナラ見ル法アリ。麿
 ラ高ケシ。自ラ勝ヨリ倒ニ見ル。死法流宗ニ出
 云。未考其體ノ高貴ノ人ノ前ニテナシカメシ。因テ
 今一法ヲ叙ム。帛ヲ折テ正方ニ作り。左ノ角ニテ
 杖ニモテ割。跪キ。其帛ノ角ヨリノ角ト塔ノ高ナラ
 三ッ合知ニ通リ。傍人ヲヒテ。其杖ノ口ヲ見セシメ。

見りりて其杖ヲ後へ真直。倒ス。其糸ヲ上カト
 一テ。浮圖ノ高サ也。



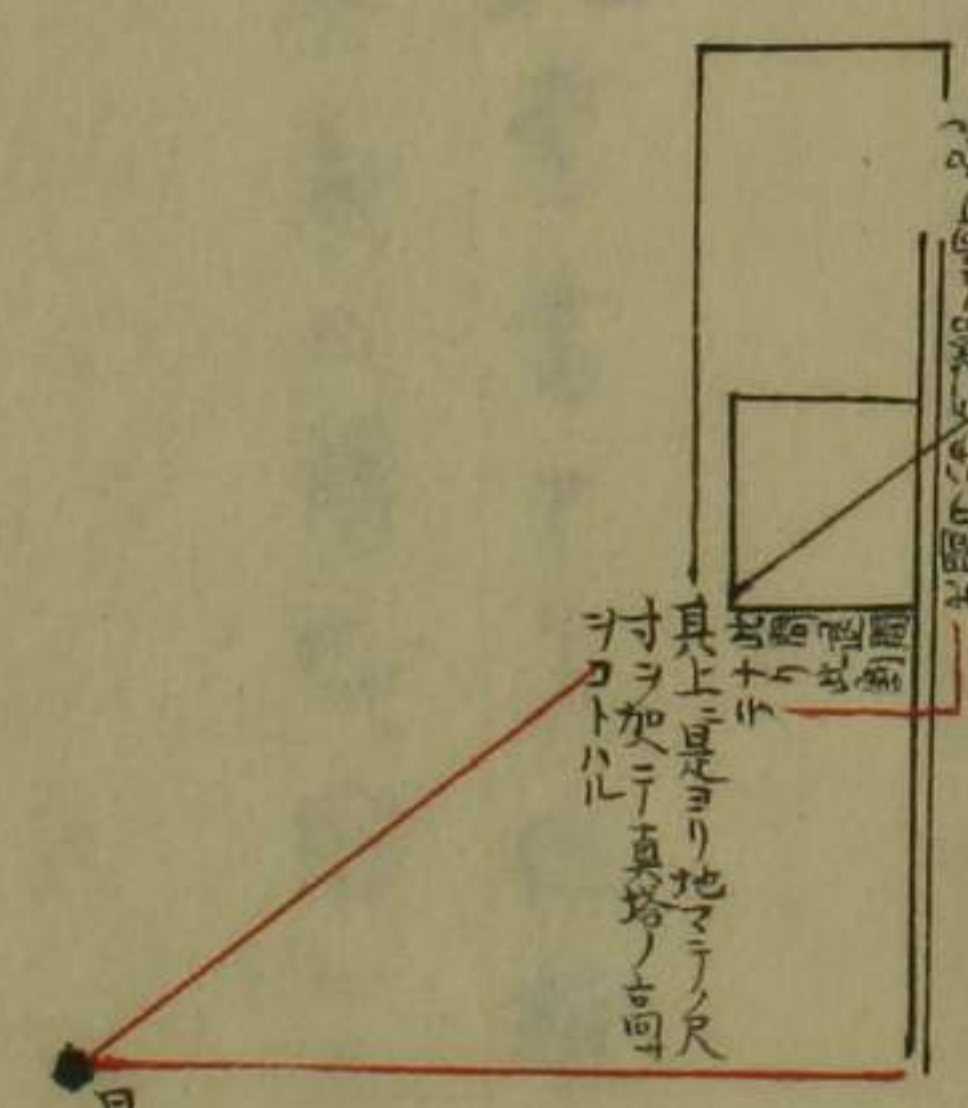
傍人ヲシテ見セシムルハ
 正シカラズ。何ニテモ重
 キモノヲ懸キニテ下ル
 モツトモヨロシ

枝ヲタラセバコミテ紙
 ノ上ノ角カクルナリ。即塔
 ノ頭上ト申斜ナリ

又塔ノ高サヨリ退間近ケハ。勾配急ナリ。



塔ノ高サヨリ退間遠ケハ。勾配ユルシ



是退塔ノ頭上ト斜也

右地域圖法 懸測 壹拾捌法

秘傳地域圖法大全書坤卷下冊

秘傳地域圖法大全書坤卷

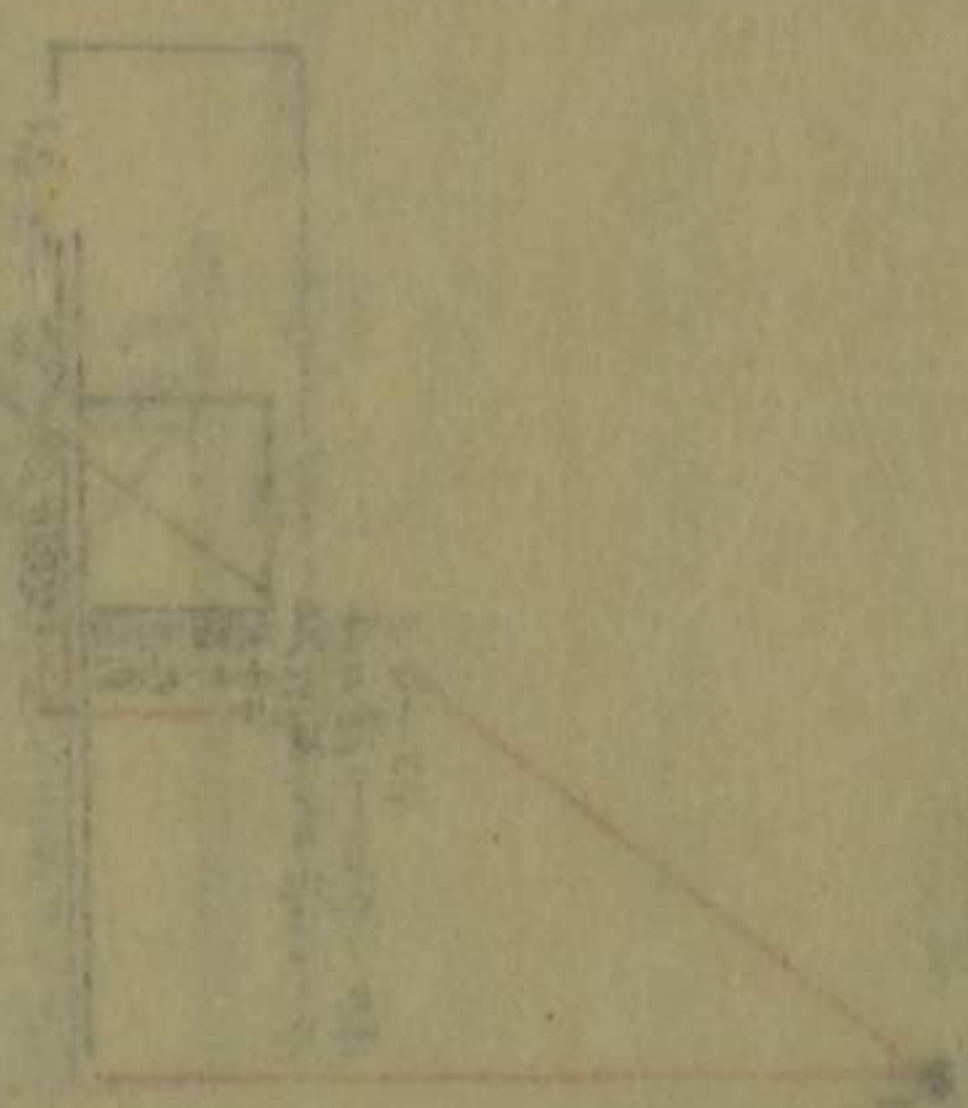
附錄

當傳初入門日。此誓書アリ但題號文章
共_ニ必_シモヨカ_ラ子共其義ハ明也。因_テ不及改正
ノ用_ニ

齋戒義定

一南蠻流所見繪圖之術御傳之上者生平
廟劫智可極之在御許無之内者他言仕
間鋪作事

附覽書卷物道具亦不知体_ニ人_ニ見也



人、寫サセ申間鋪作

一 雄親子兄弟相弟子此一座之學者祕傳之
義者語り合申間鋪作事

一 御傳受以後如何様之仕出發明雜有之全
自流ら致し汝汝仕間鋪作事

右之條々於致違犯者

八幡大神之御罰可羅蒙者也

年號月日

誰殿

古目錄

有序此序文頗係甚多ク高儀也。因
テ不載也。梅スルニ此目錄ハ町見針ヲ

教トスル時ノ序目錄也。

町見之次第目錄

一 町見道具之事 一 三四五矩尺之事

一 平町之事 一 山之高 附 真見事
根張之見極之事

一 槍柄ヲ町見事 附 何カモ見ル事
谷沼知事

一 先之廣見事 附 出入見ル事
附 繪圖道具
事 一 城之圖見事

一 人形ヲ以町見知事 一 校地坪割之事

一 遠町之町と謂事

右町見十ヶ条之上者以近知遠得短謀長不易之
流法也委細因茲記省略之雅為親子兄弟ノ容

易不可許之仍與書如件

山崎作左衛門 重次

小浦權太夫 永之

本部四郎右衛門 成加

村井三左衛門 春學

金子立運

中古目錄

本部村井金三子の相義し二ノ西度迄
改正し定メテ五十一ノ系トス其趣乾
卷議論見ハタリ
有序亦顛倒甚多ク誤也因テ不載也

漢和町積惣目錄

一平町之事 附十三段 一三四五短尺之事 附六段

一知山高事

附品十二段

一先之廣知事

附品五段

一知谷之治事

附品六段

一知勾配事

附品十六段
五洲之妙器

一揆地步事

一繩竿ノ次第

并

品九段之事

一隔遠山水取事

一知山真出中事

附品三段

一從矢枝間間積事

附品五段
附品四段

一以人取知町事

附品四段

一槍柄町見事

附品無量

一様々町事

附品十二段

一大渡見術之事

附品九段

一水葦水月之事

附品四段

一二目返之事

一謀知遠城事

極意

一謀天ノ高事

一知日月循路行程事

- 一知天地中央事
- 一知東西南北倚地事
- 一遠町之事
- 一天性町積之事
- 一直町之事
- 二十五條

繪圖目錄

- 一知度呂輪之事
- 一度方之別傳
- 一大圖縮小圖事
- 一地割之事
- 一山坳拔貫妙術之事
- 一煩繩之事
- 一逆繩之事
- 一四方詰之事
- 一經失弦之事
- 一大肯之事
- 一遠山步繩之事
- 一隱里之事

- 一道形之事
- 一水坎之事
- 一印繩之事
- 一飛遠之事

極意

- 一扇車之事
- 一生之繩之事
- 一無地割之事
- 一無道具妙術之事
- 一無磁石知方角事
- 二十一條

外町術

- 一以教知町事
- 一清明矩尺之事
- 一中斜町積之事
- 一以系知町事
- 一紅毛國町積之事
- 五條別傳之事有之

右所積目錄凡五十一條者萃其大數昂
以傳之附品々条件事業無尽也定用之
則彌六合卷之外不備懷實幸贊之齊之
外師不令他見者也仍與書如件

本部四帛右衛門 威加

村井三左衛門 考學

金子立運 昂昌澤

石細井次郎太史 知煥 昌澤ヨリ志傳之了右
之目錄中枝藝家之造意を多し依之 知煥
著地域圖法乾坤合四冊物也

右山崎氏阿蘭陀人ヨリ初傳也其後嫡々詳
見于右

密附諸品

六卷之書 南蠻一曆

三牧カルタ 萬國細圖 咬啗海上分度圖
日本正圖

右熊野牛王血判ニテ印可ノ日傳之此密附

十キハ正傳ニアラス昌澤 知煥ニ傳ル時ヨリ血判

十シ

新傳 知煥叔之

江府本圖

一合五旬大図五牧ヲ合メ全ニ遠近道印ト假ニ名
ヲ立テ記セリ。當流名人ナリ。醫術ノ人ナリ五

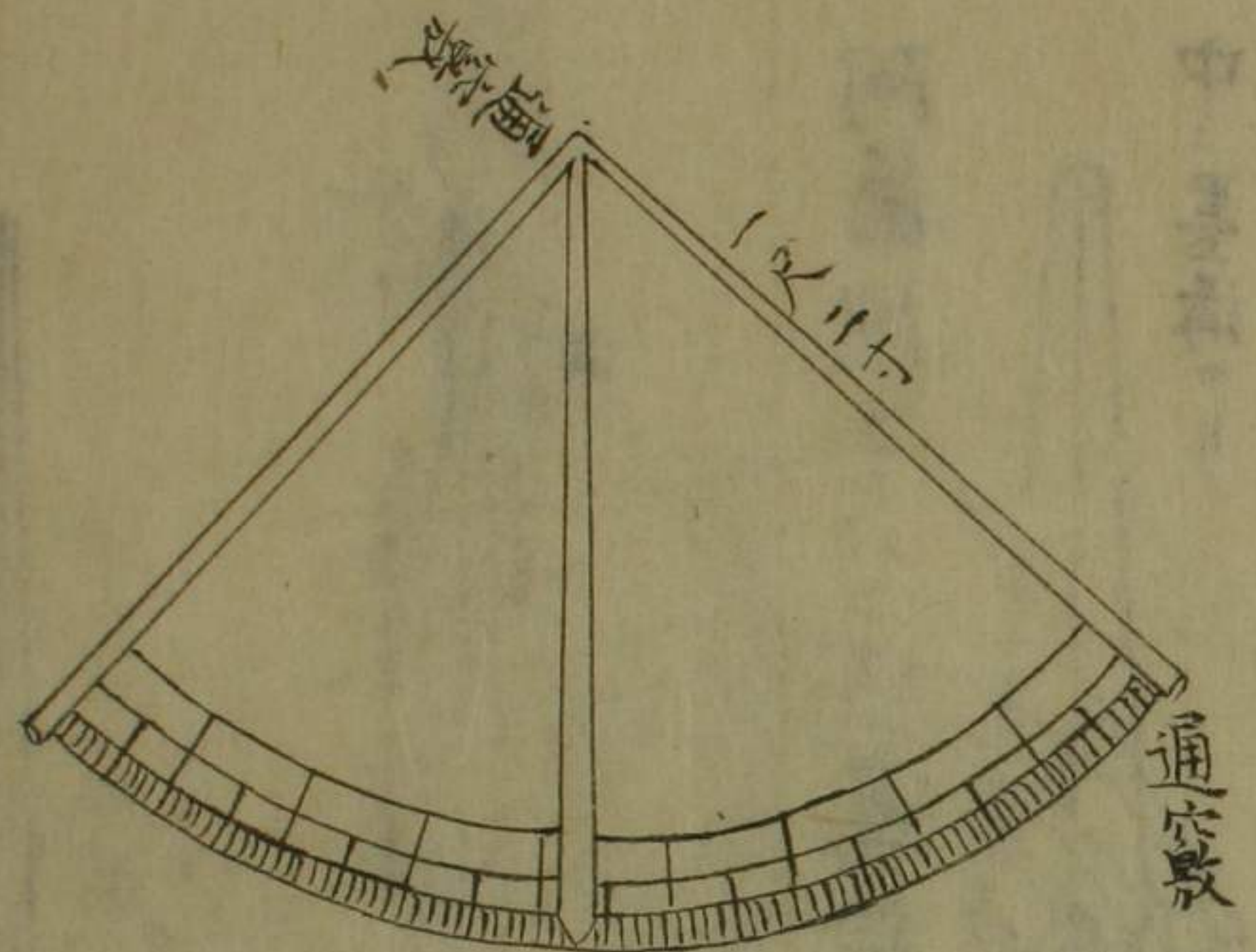
牧ノ國重大ニメ銜ナルヨリテ、一分十間一投ノ
行フ方位セ同シ。是レモ用エハシ。其後市間ニテ
偏メタルハ皆港要也

野帳手本 國圖手本
山圖手本 東海道卷繪圖

新定器用圖式

ワタラシテ

六卷ノ書ニ詳ナル圖アリクハタラシテイト云テアリ變詠
此方ノ人ノ耳ニヨリテカハリテ聞ユルナリソレヲ假名ニ書テ
傳フルユニ相違多ク



此器象限儀ト漢ニテ云
天ノ圓ヲ四ツニ割テ大度
ヲウカバフ妙器也地域ヲ
圖スルニ北極ヲ定ムルニナ
ラス勾配ヲ見ル要器ナリ

コンパンス

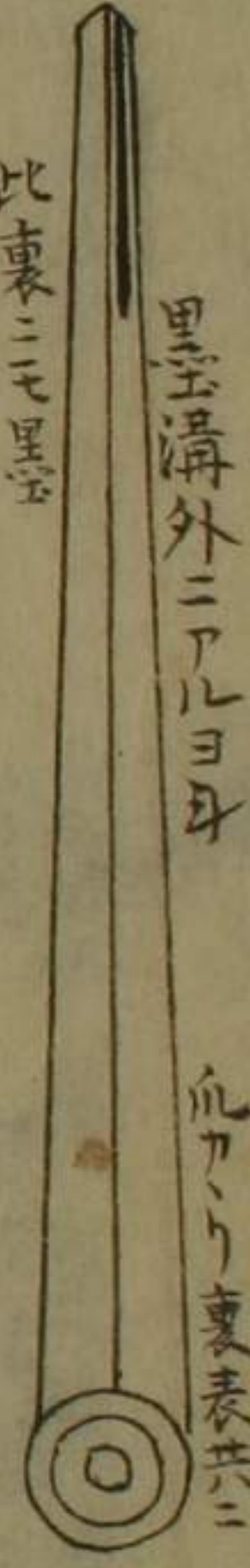
鐵キタイカ子



爪カ、裏表共ニ

厚サニ分半ニ割
要ニテシムル

墨溝外ニアルヨク



爪カ、裏表共ニ

此裏ニモ墨
溝アリ

阿蘭陀コンパンス 真鍮彫物具工ナリ重クシテ不便



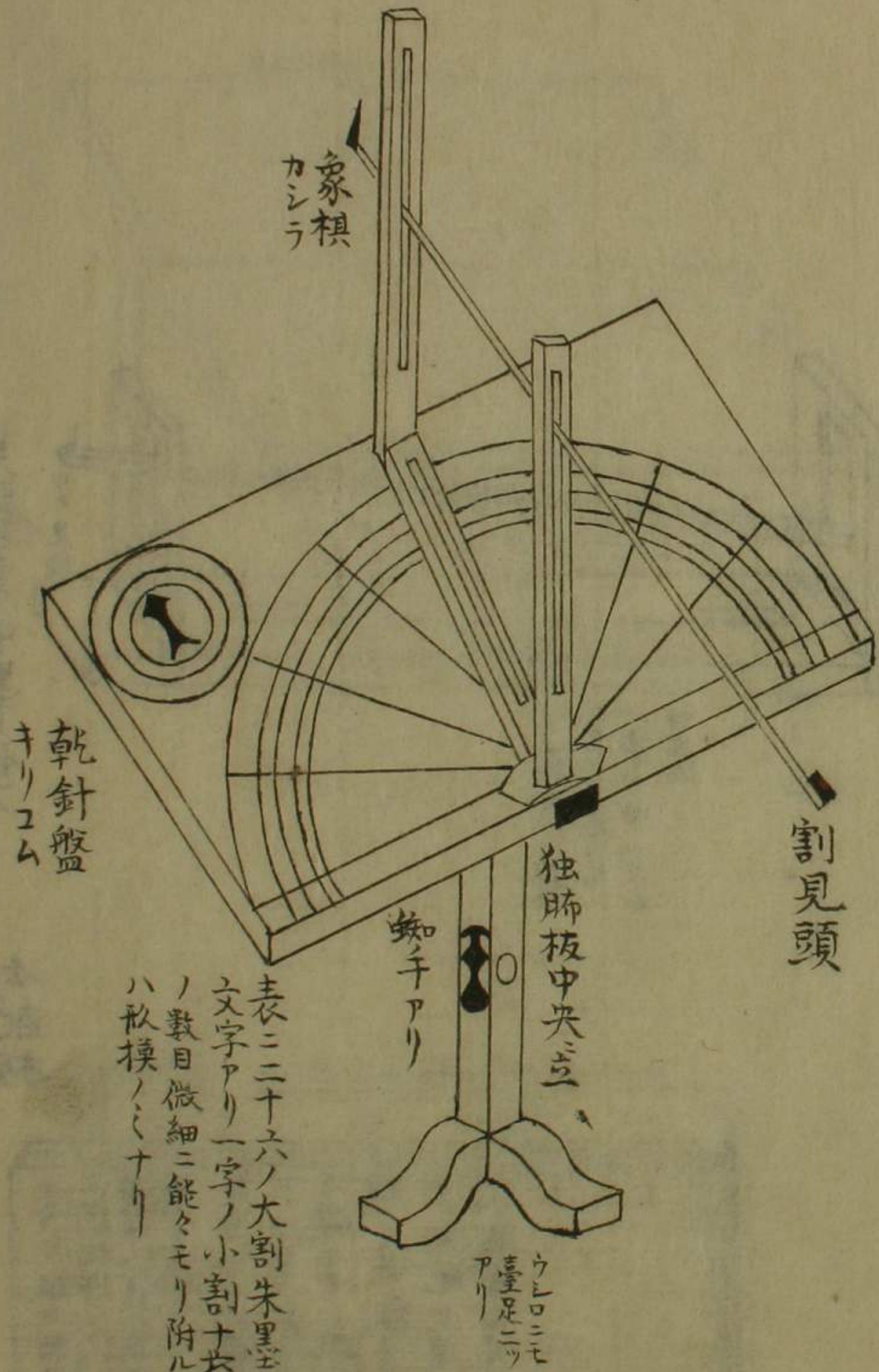
中ニ墨溝アリ

片コンパンス鏡

枯タル竹ニテ作ルモヨシ

秤ノゴトク
丸シニ割
ナリ

クハトロワン 阿蘭陀本圖略也



象棋
カシラ

割見頭

独肺板中央ニ立

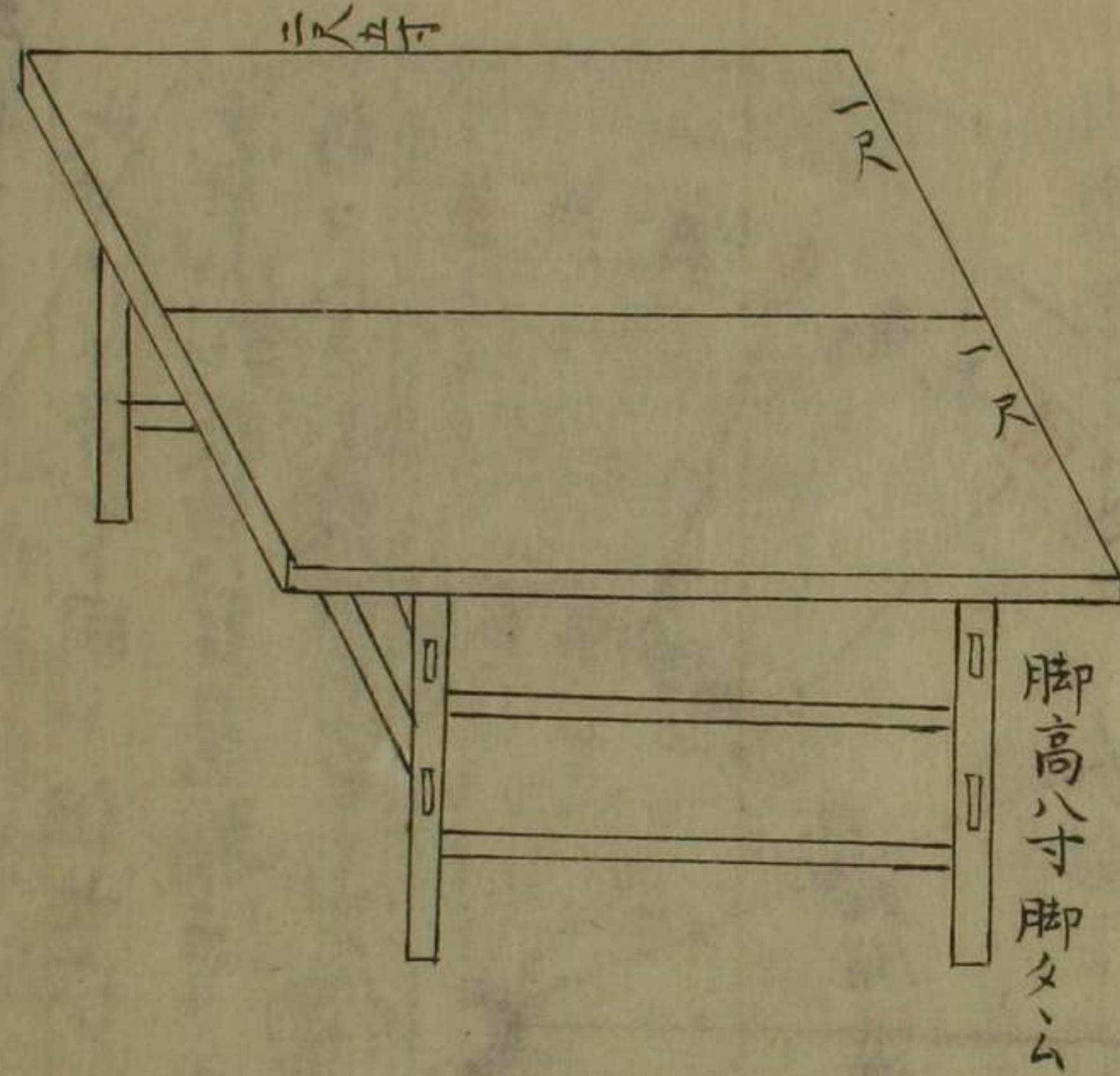
鋸子アリ

ウレロニモ
臺足ニテ
アリ

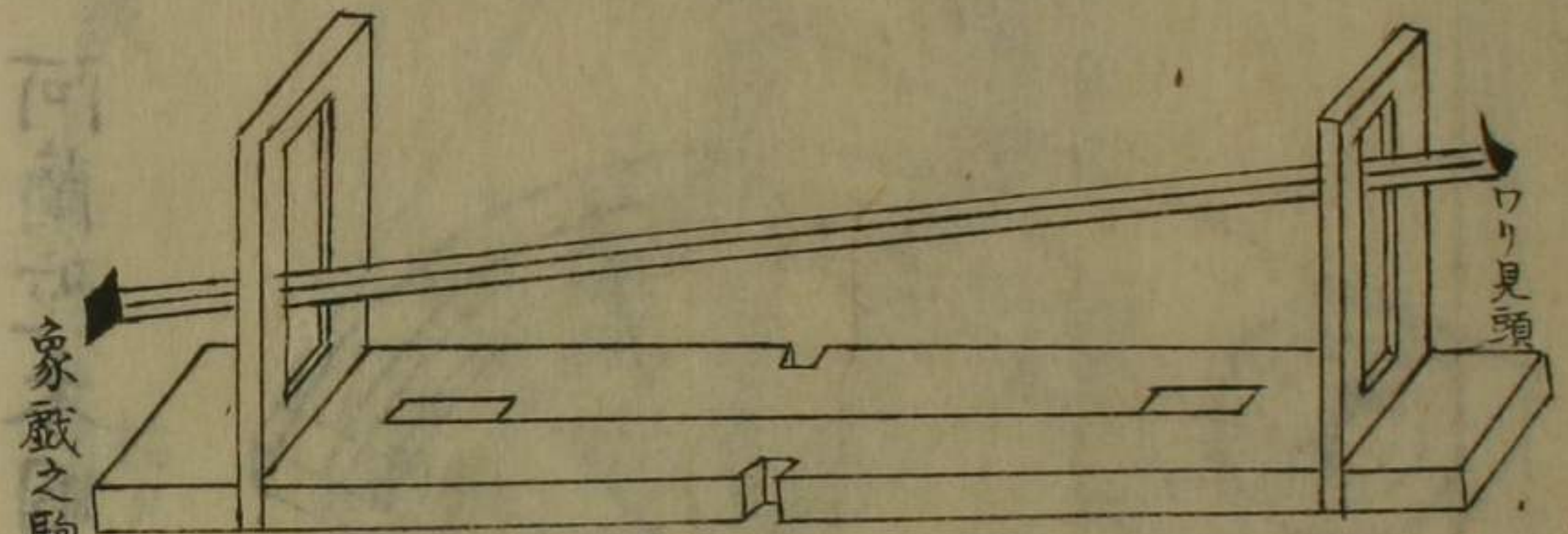
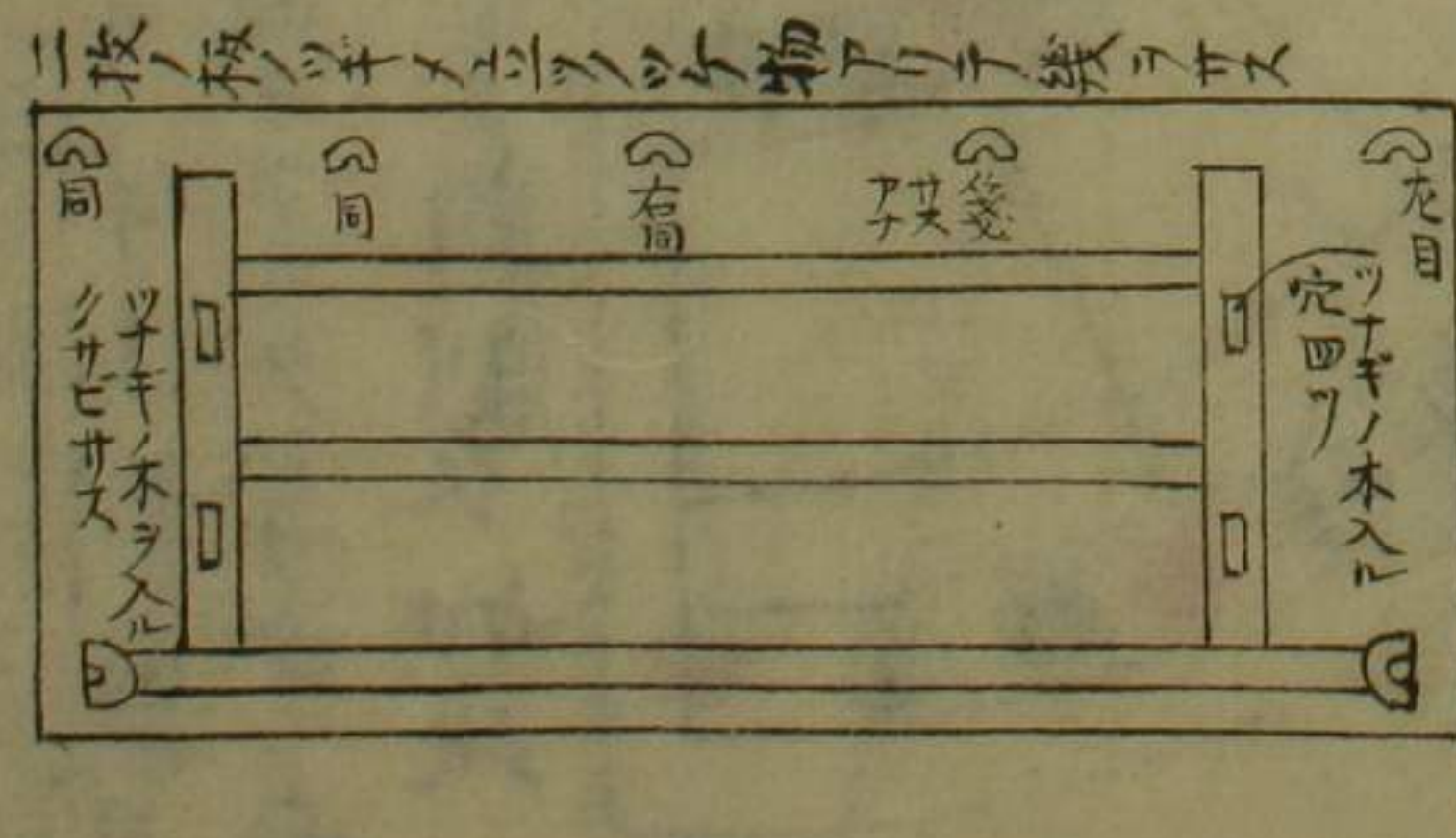
乾針盤
キリコム

表ニ二十六ノ大割朱墨之
文字アリ一字ノ小割十女宛
ノ數目微細ニ能クモリ附ル此
ハ秋模ノミナリ

比翼机

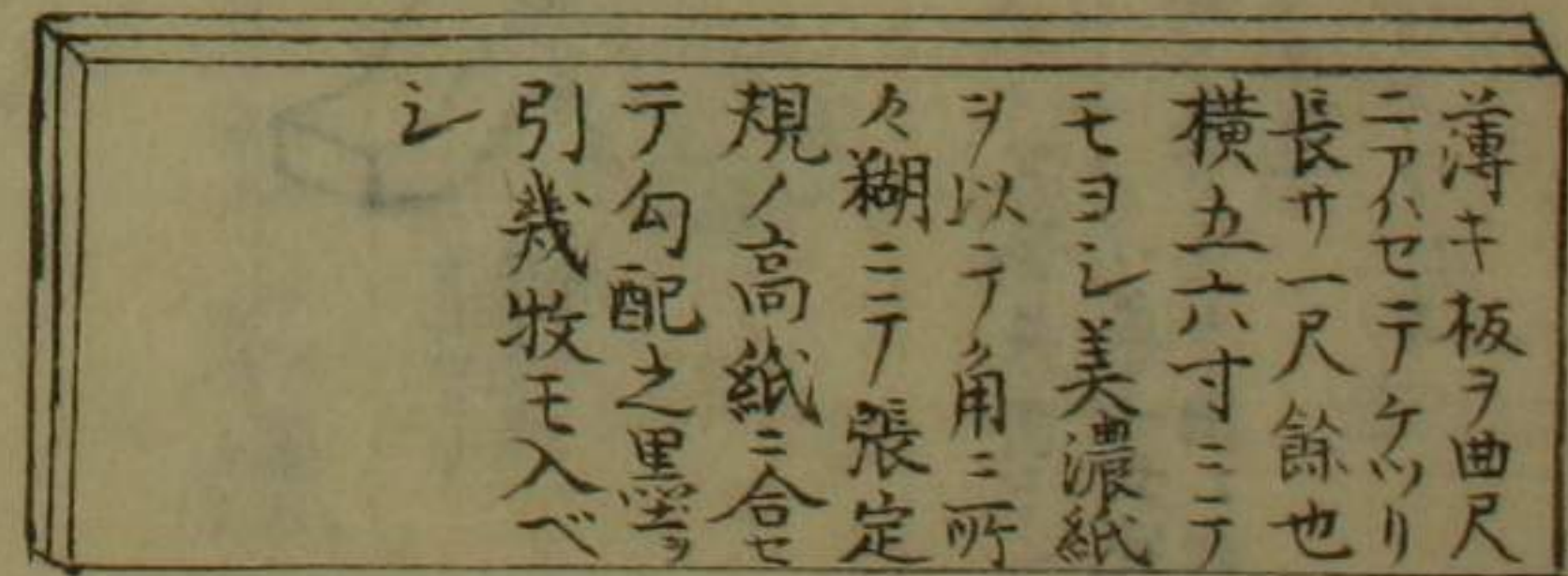


机裏之圖
脚タミタル圖也



勾配急ナル時
二本ノタテモノ
一本ヲ中ヘサシ
カユル

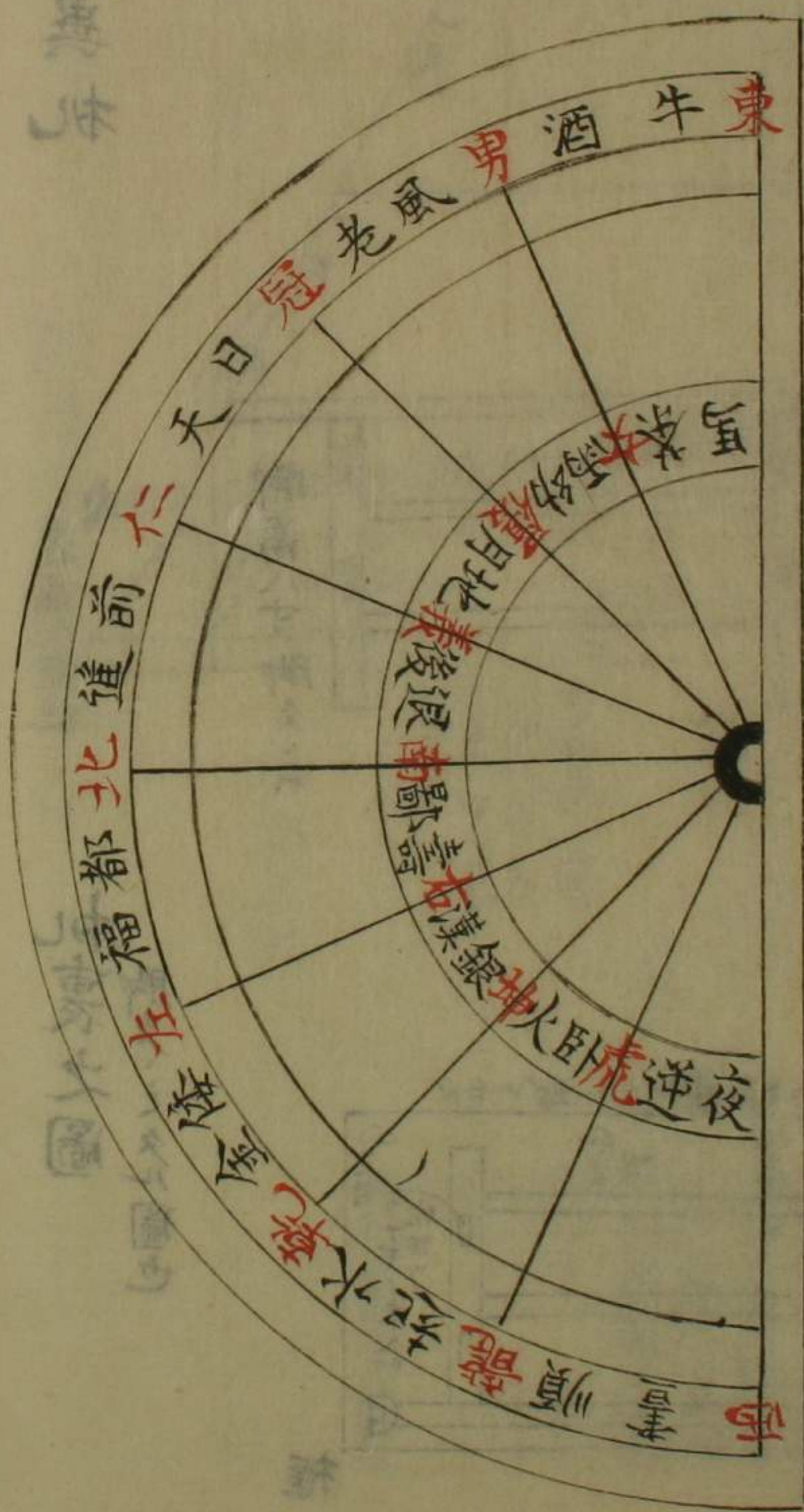
勾配板



紙盤

美濃紙豎横二枚アハセ

大サクトロワント同シ但廿六ノ大刻バカリニテ小刻数目ナレ小刻数目ハ琵琶撥云リ舊ハ紙盤ヲアツクシテ中ニ麻布ヲ入テ小数目悉モリテ作り甚劣セリ新制衣如此

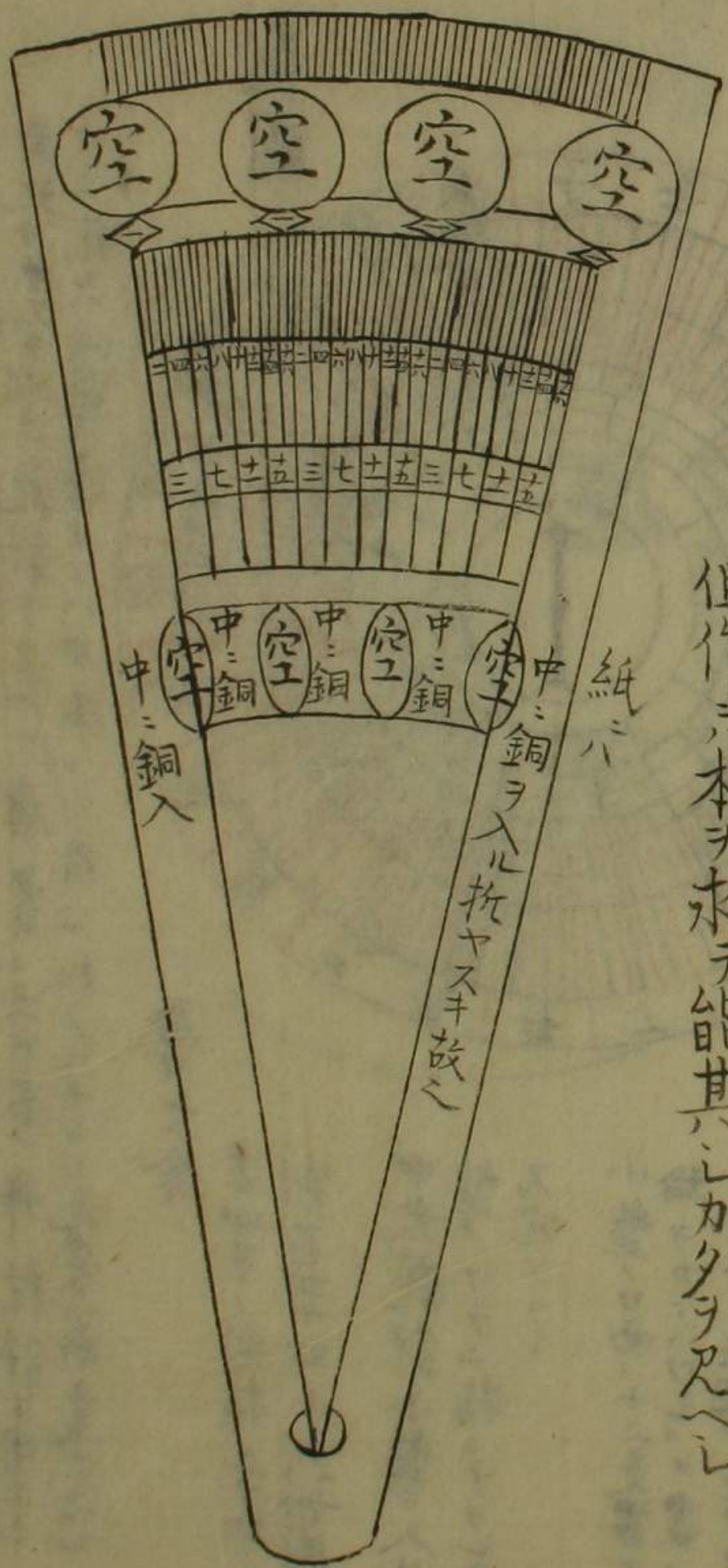


琵琶撥

此器新製也真渝を好シ畧ハ美濃紙ニ枚アハセ中ニ布ヲ入上面ニ胡粉ヲ膠ニテ子リテ引テ如圖ニ目ヲ引ハ箇ノ穴ヨリ紙盤ノ字ヲ見テ野帳ニアハセ

此圖寸法正シ

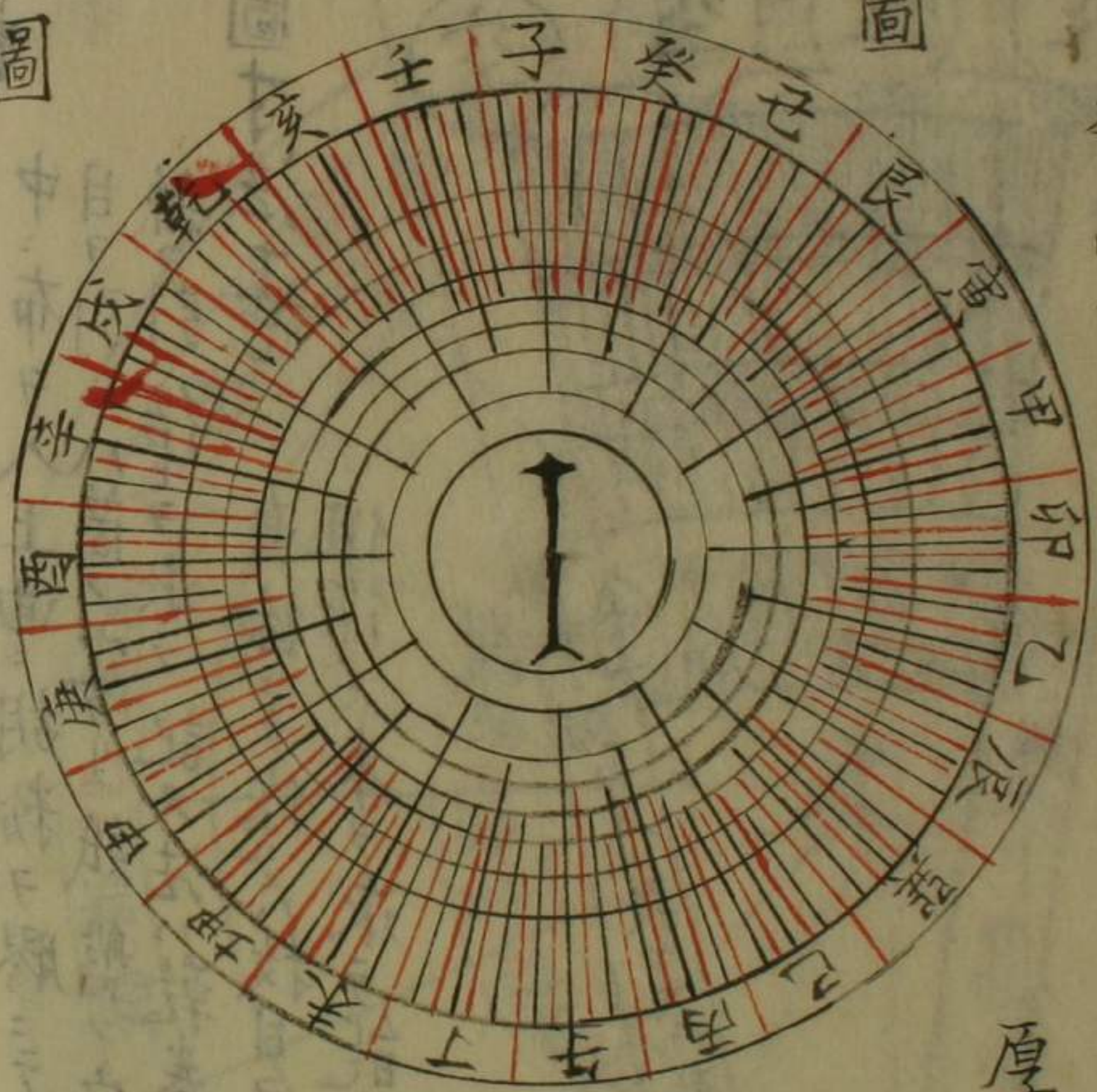
真鍮ニテ作ルハ数目ヲカ子テ切但作ルハ本ヲ求テ能其ハレカタラズヘシ



懸測真定規

即席急劇時ハ常ノ直ナル本ヲ用ユ必シモ此真定規ヲ求メス

表圖



杖頭乾針 乾針ハ即盤針ナリ乾ハカク也旧磁石ヲ針タリテ
 水ニウカメテ南北ヲ知是ヲ水針ト云今針ノ頭ニ針ヲノセテ
 南北ヲサスヲ以テ乾針ト名ツク唐書ニ云日本ノ舟ニ乾針ヲ用ユト
 アリ然レハ此器ハ唐ヨリハ日本ニテ用ヒ知タルナラニ元來ハ南夏ナルヘシ

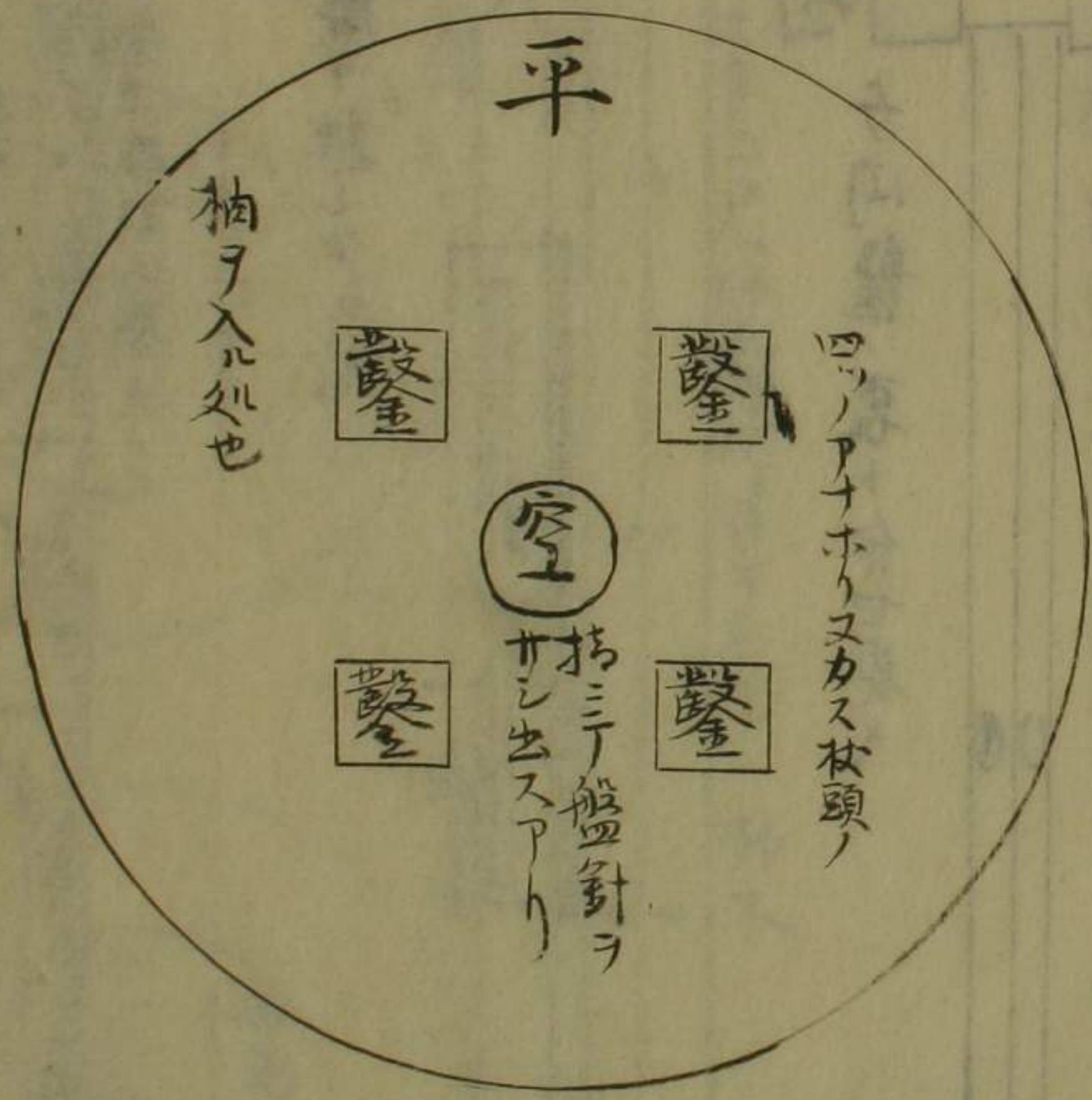
厚七分

方四寸ノ図板ニ二十四ノ
 刻百四十四ノ小刻如圖

中央乾針小盤ヲ入ル
 盤ノウラニ指ミテヲ出
 ス穴アリ

小盤ノ口曲ノ十二支書タル
 輪ヲカケハツシミノ裏ニハ
 十二支ヲ左廻リ書付ル
 乾ノ巻ノ内此用井ヤウ
 アリ

裏圖



四ノアナホリヌカス杖頭ノ

鑿

鑿

鑿

鑿

平

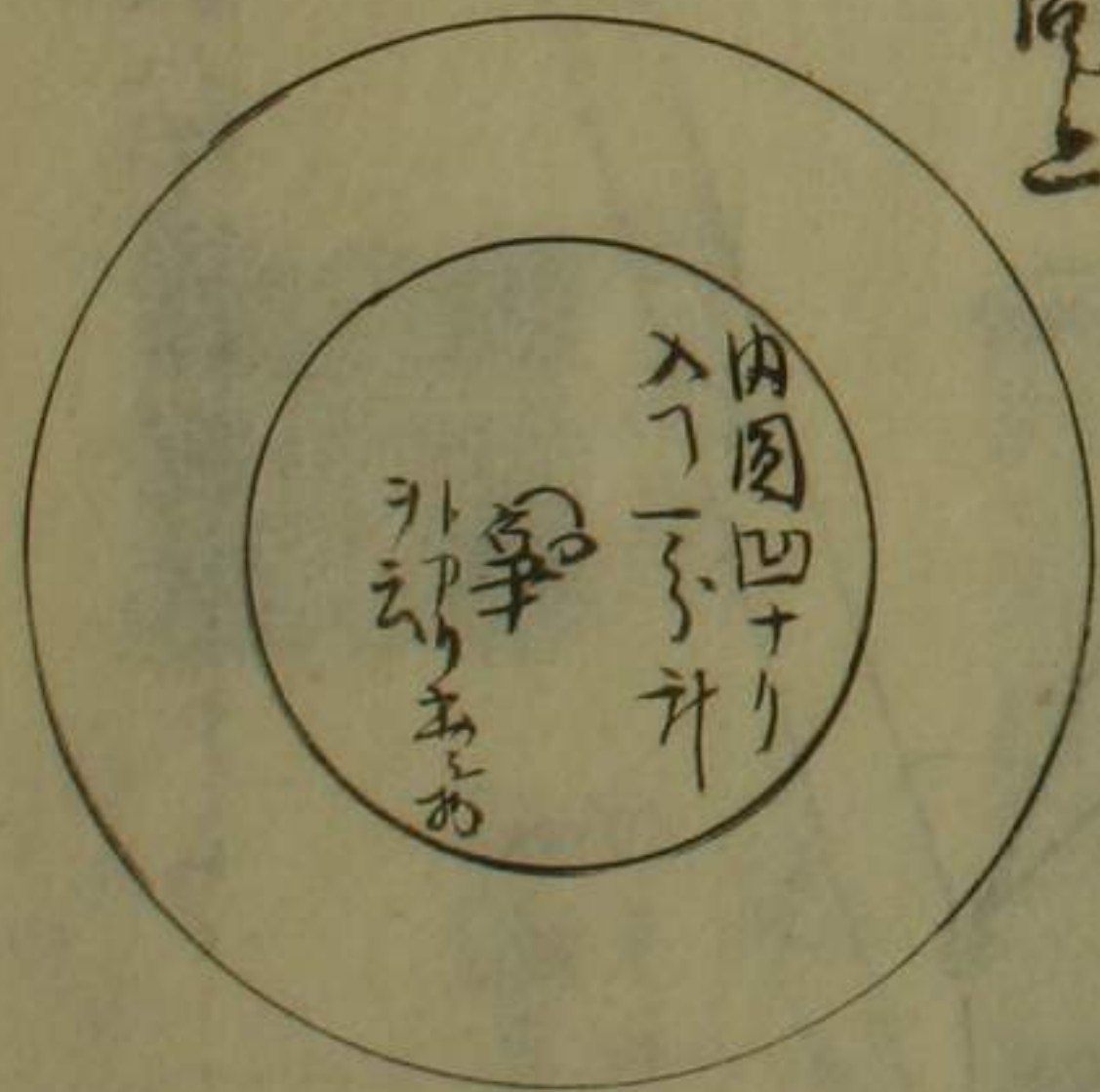
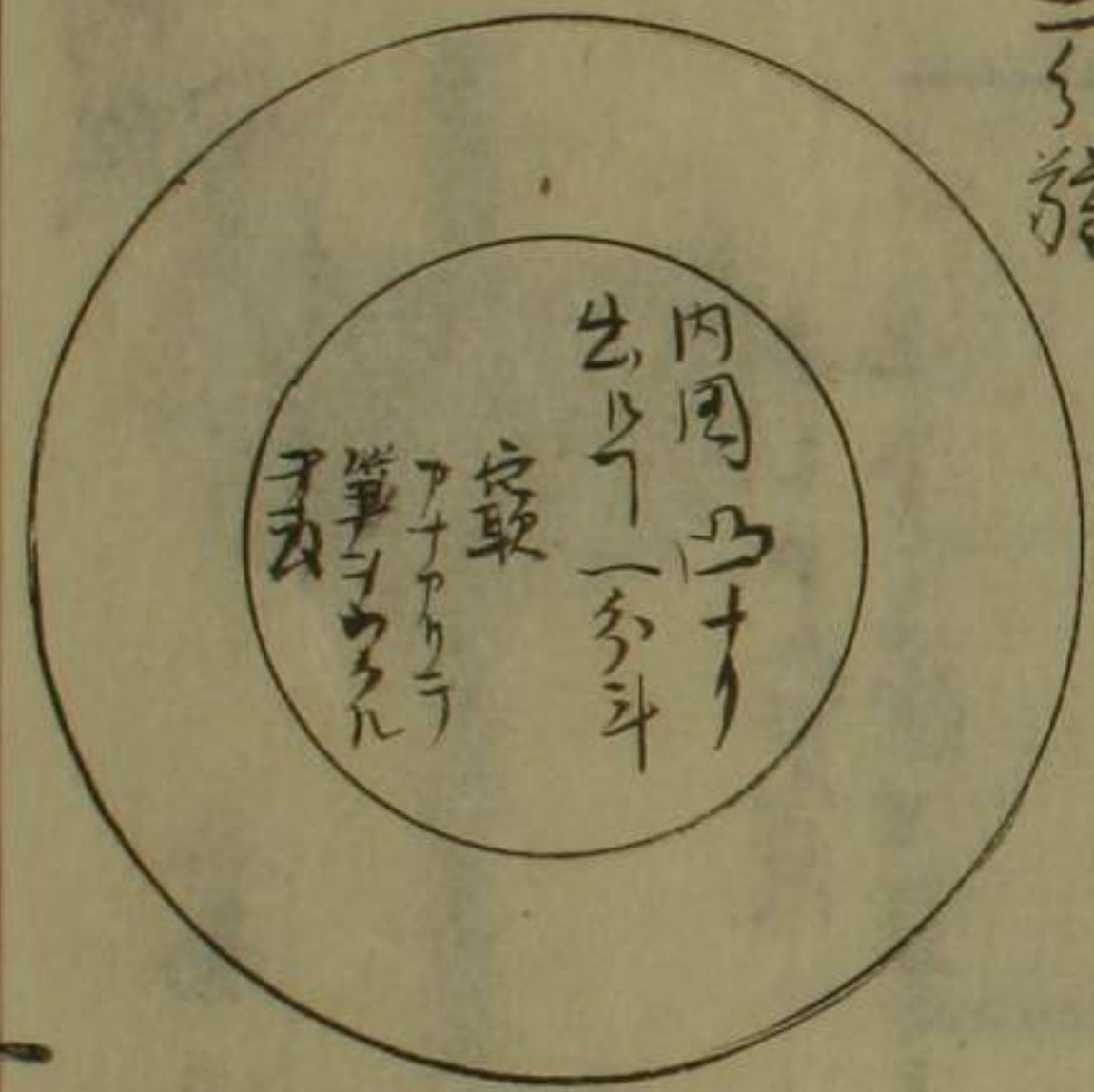
空

括ミテ盤針ヲ
 ガシ出スアリ

袖ヲ入ル処也

略定規圖

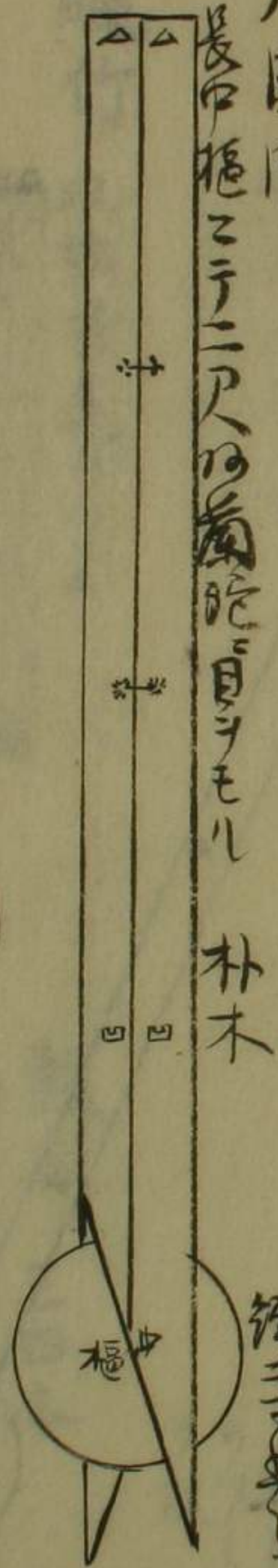
圓樞圖



厚二三分

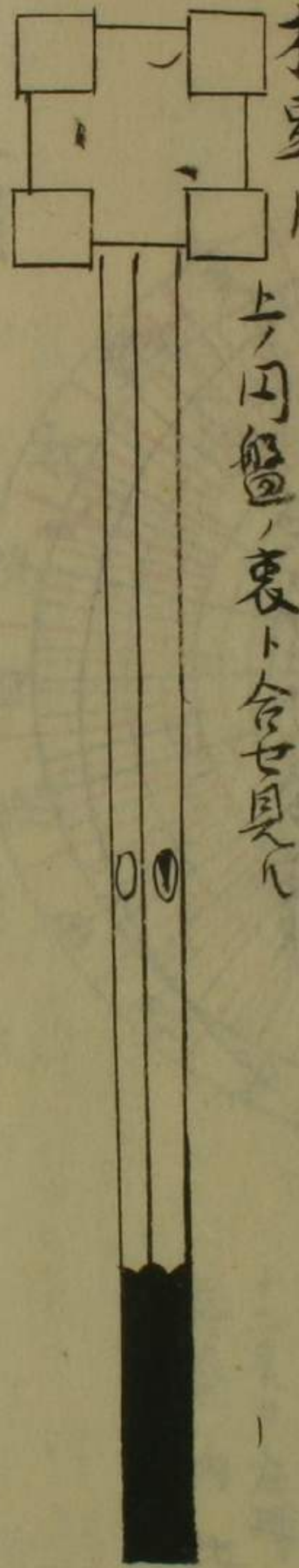
同上

尺圖



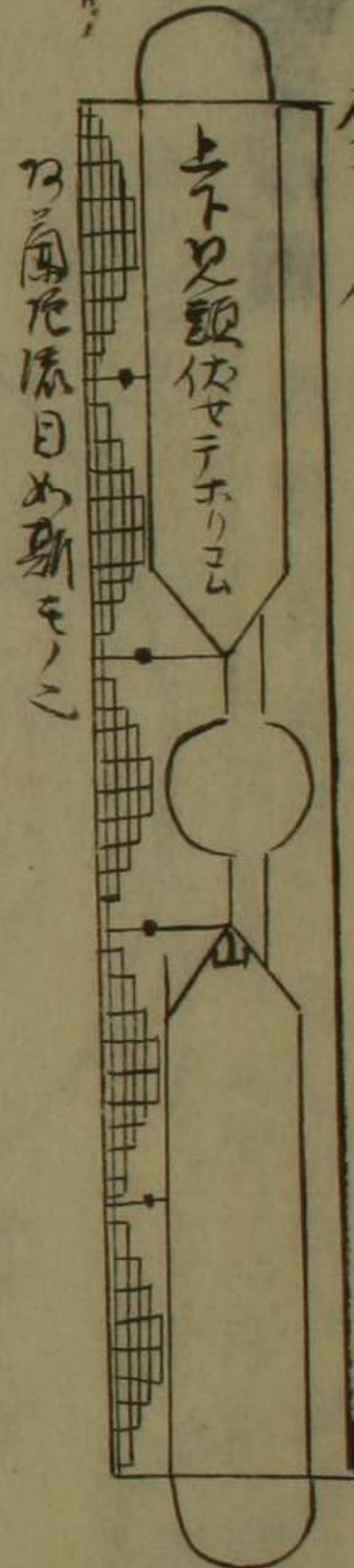
自在面尺 此曲尺如蓋之コニリスノ大キナル物ニテ用長尺此製
其格ノ出ニ從要ノ逸意一且感得セリ丸中格ナリ

杖頭圖



貝頭ヲ起シタル也

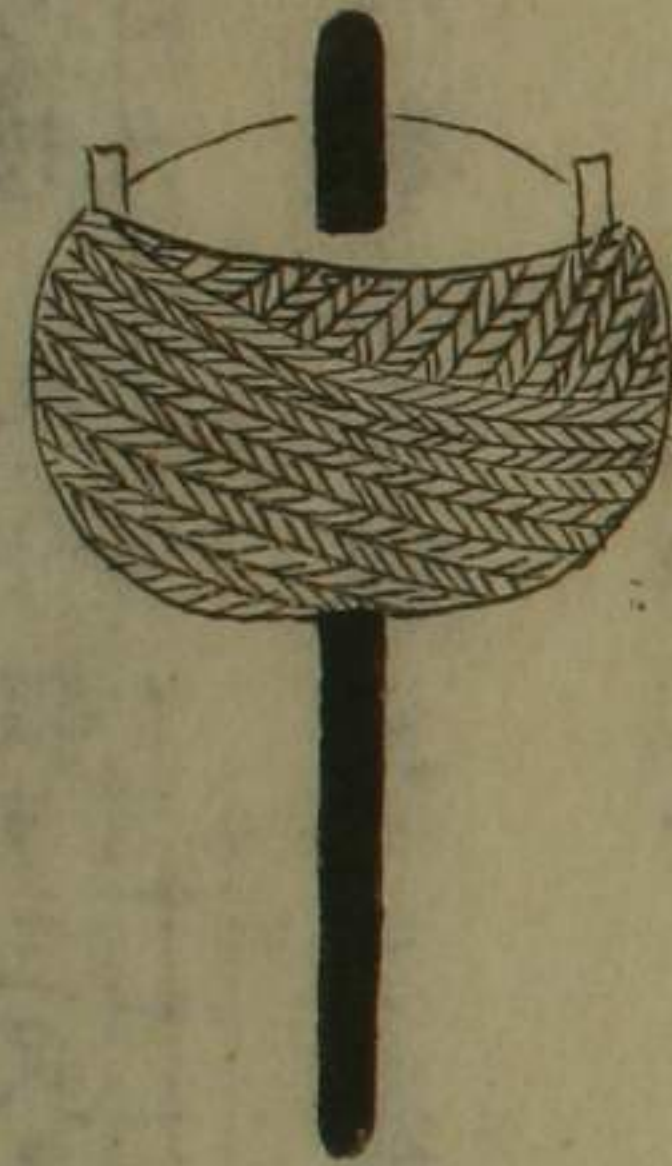
此内樞



厚二三分

此内樞アリ
見頭依ヤテ
ホリヨム
乃ニ角形添
目如新モノ

繩篋



繩竹



以銅首尾ヲウム

長六尺有奇



此杖用甚廣し自在ノ曲尺ヲ傍テ高低ヲ窺
三本ヲ貯フヘシ

以鉄葉畏之

土塊沙石ヲ以
ウツニ杖直
ヲ取



漆絲

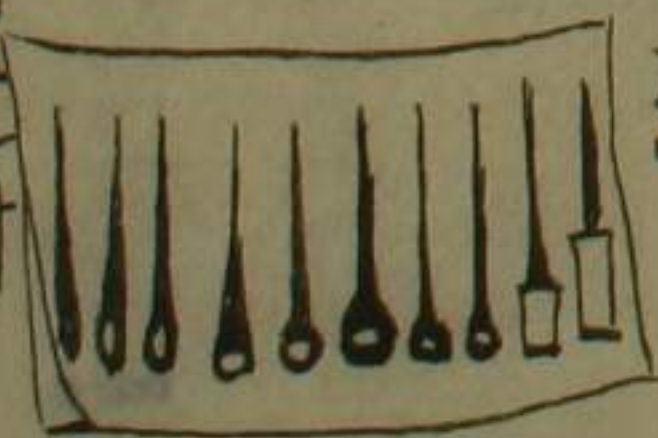
鐵杭



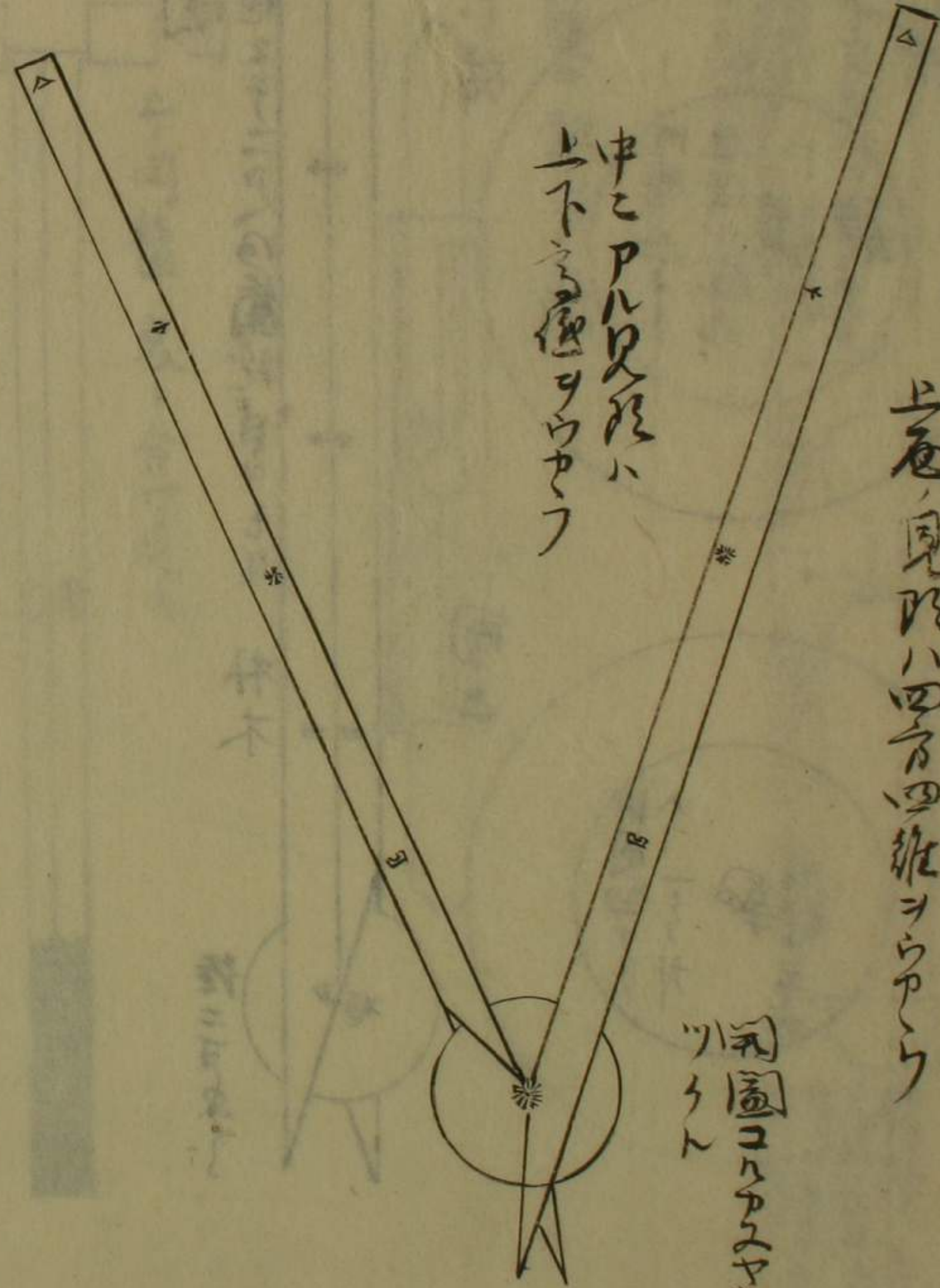
三四本

鐵木小

席工ノ用ユル針
ヲモ貯フヘシ



天用



中ニプル尺ハ
上下ノ極ヲウケフ

上層ノ見取ハ四方四維ヲウケル

天圖ヨリハヤリ
ツクン

間杖真ノ圖

九尺ノ杖ヲ三尺入組テホツル正ニ

六尺杖ニテハ継手ニテ爽ユヘ大切ニハ右ノコトクスヘ

五色紙



五色墨



此外大槌鋏鎌等鋸鑿錐之類所在皆有之不必携矢。

三本ノ親ノ入

此林ノ真ノ氣ノ自ニ由入ノ新ノ高樹ノ實

々

